

加古川市文化財年報

第5号

令和元（2019）年度

令和4（2022）年3月

加古川市教育委員会

加古川市文化財年報

第5号

令和元（2019）年度

令和4（2022）年3月

加古川市教育委員会

目次

目次・例言・凡例

巻頭図版

第1章 調査研究	1
調査報告1 下村遺跡 確認調査報告	
調査報告2 岸城跡 確認調査報告	
調査報告3 美乃利遺跡 確認調査報告	
調査報告4 金属製品保存処理 概要報告	
第2章 文化財の保護と活用	24
新市指定文化財 里古墳の画文帯神獣鏡	
第3章 歴史文化基本構想策定事業	31
第4章 文化財審議委員会	34
第5章 文化財関係の事務処理	36
第6章 組織、予算・決算、管理	43
報告書抄録	

例言・凡例

1. 本書は、平成31・令和元（2019）年度に加古川市教育委員会が実施した文化財保護のための調査及び活動を記録した報告書である。
2. 本書の作成は、加古川市教育委員会事務局教育指導部文化財調査研究センターが行った。執筆は宮本佳典、山中リュウ、平尾英希、古林舞香、埋蔵文化財専門員 岡田美穂が行い、編集は古林が行った。執筆の分担は文末に明記している。
3. 出土遺物の整理、実測、製図は、古林のほか、会計年度任用職員 井上かおり、小笠原琢馬（大手前大学生）、窪田美佳、佐藤 薫、田淵雄大（大手前大学生）が行った。
4. 図表作成のデータ整理は、会計年度任用職員 鳴瀬万寿美が補助した。
5. 遺物実測図の断面は、須恵器は黒塗り、そのほかは白抜きで表現している。
6. 本書掲載の地図は、加古川市発行の都市計画図を一部改変し、使用した。縮尺などは各地図に示したとおりである。
7. 本書で報告した出土遺物、実測図、写真などは加古川市教育委員会が保管している。



里古墳の画文帯神獸鏡

第1章 調査研究

1 埋蔵文化財調査

国及び県の文化財関係補助金事業として、各種開発事業に伴い、市内遺跡の発掘調査や出土品の整理を行ったほか、過去の発掘調査で出土した金属製品の保存処理などを行った。平成31・令和元(2019)年度(以下、本書では「令和元年度」に表記を統一する)の事業費は5,600千円(国費2,800千円、県費1,400千円)であった。

令和元年度は、①開発事業に伴い破壊される遺構・遺物を記録保存することを目的とした発掘調査を2件、②周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内での開発事業に伴い破壊される恐れのある遺構・遺物の状況を確認することを目的とした確認調査などを22件、③周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)外での開発事業に伴い事前に埋蔵文化財の有無を把握することを目的とした試掘調査や分布調査などを14件実施した(表1)。

発掘調査は、坂元遺跡及び美乃利遺跡において実施した。以下、その成果の概要について述べていく。
坂元遺跡 民間開発の店舗建設に伴い発掘調査を実施した。工事によって遺跡が破壊される部分に6か所の調査区を設定し、合計370㎡の調査を行った。調査の結果、飛鳥時代頃の竪穴建物跡1棟や、奈良時代頃の掘立柱建物跡、柱穴列などが複数検出され、遺構内や遺構を覆っていた遺物包含層中から土師器や須恵器を中心とする古代の遺物が遺物収納コンテナ計14箱分出土した。

なお、調査成果の詳細については、『坂元遺跡発掘調査報告書』(加古川市文化財調査報告36)を令和4(2022)年4月に刊行予定である。

美乃利遺跡 加古川市が事業実施主体となって行っている中津水足線外1線道路改良事業(大野バイパス)に伴い、道路敷設部分において発掘調査を実施した。令和元年度の調査地は、平成27(2015)年度に発掘調査を実施し、弥生時代終末期頃の竪穴建物跡4棟のほか、多数の遺構・遺物が確認された調査地の北東隣に位置する。調査の結果、溝状遺構や土坑、ピットなどが検出された。なかでもピットの検出数が著しく多く、なかには掘立柱建物を構成するものも存在する。また、遺構の分布状況をみると、平成27年度の調査地に近いほど遺構分布が密になっている傾向が明らかとなった。遺物は、弥生土器、土師器、土師質土器、須恵器などが遺物収納コンテナ計39箱分出土した。現在、整理作業中であるが、弥生時代中期、弥生時代後期から終末期、奈良時代、平安時代、中世の複数期にわたる遺構が存在したことが確かめられている。

なお、発掘調査報告書については、令和3(2021)年度実施の隣接地における調査成果と併せて令和5(2023)年度以降に刊行予定である。

一方、試掘調査や確認調査、分布調査については、各種開発事業に伴い周知の埋蔵文化財包蔵地内外で計36件の調査を実施した。本年報では、これらの調査のうち、遺構・遺物が確認されたものを中心として3件の調査成果について報告する(図1)。また、令和元年度には、文化財関係補助金事業として市内遺跡出土金属製品の保存処理も実施したため、本年報においてその概要を報告する。

- 調査報告1 下村遺跡 確認調査報告
- 調査報告2 岸城跡 確認調査報告
- 調査報告3 美乃利遺跡 確認調査報告
- 調査報告4 金属製品保存処理 概要報告

2 その他の文化財調査

埋蔵文化財を除くその他の文化財調査については、市指定文化財の指定に係る美術工芸品の事前調査1件を行ったほか、指定文化財を含む市内文化財の現状確認のための巡視41件を行った。

市指定文化財の指定に係る美術工芸品の事前調査は、令和2（2020）年3月12日に加古川市指定文化財となった里古墳出土画文帯神獸鏡に関するもので、その要点は、「第2章文化財の保護と活用／1指定・登録文化財」に記している。

（山中・平尾）

表1 発掘調査、試掘・確認調査及び分布調査一覧

発掘調査						
番号	遺跡	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元、坂元北地内	平成31年4月17日 ～ 令和元年7月6日	360㎡	竪穴建物・掘立柱建物・溝状遺構・土坑・ピット、弥生土器・土師器・須恵器・金属製品	店舗建設工事に伴う本発掘調査
2	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野地内	令和2年2月17日 ～ 6月17日	594㎡	掘立柱建物・溝状遺構・土坑・ピット、弥生土器・土師器・土師器質土器・須恵器	中津水足線外1線道路改良事業に伴う本発掘調査
試掘・確認・分布調査						
番号	遺跡 ^{註1}	所在地	調査期間 ^{註2}	調査面積	調査概要	備考
1	横倉城跡 城館跡 中世	平岡町新在家904番	4月16日、17日、 22日	20.7㎡	性格不明遺構、土器・瓦	
2	加古川町稲屋地区	加古川町稲屋883番1の一部ほか	4月23日	24㎡	遺構なし、土師器・須恵器	試掘調査
3	加古川町間形地区	加古川町美乃利地内	5月7日～10日	約5ha	須恵器・土師器	分布調査
4	古大内遺跡 官衛跡 奈良	野口町古大内603番1の一部	5月15日	4㎡	遺構・遺物なし	
5	東神吉町出河原・中津地区	東神吉町出河原、加古川町中津地内	5月27日、 29日～31日	37.2㎡	遺構なし、土師器・須恵器	試掘調査
6	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元138番2	6月13日	12㎡	遺構・遺物なし	
7	加古川駅北第4公園	加古川市加古川町溝之口三丁目第4公園内	7月2日、3日	8㎡	遺構なし、土器	試掘調査
8	行者塚古墳 古墳 古墳	西条山手二丁目21番14	7月9日	7.5㎡	遺構・遺物なし	
9	石弾城跡 城館跡 中世	加古川町木村533番1	7月24日	8㎡	遺構なし、土師器	
10	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	八幡町下村867番2	7月31日	8㎡	ピット、土師器・須恵器	
11	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町口里594番、595番、 596番	9月2日	8㎡	遺構なし、土師器	
12	岸城跡 城館跡 中世	西神吉町岸691番1ほか8筆	9月4日～6日、 11月12日、 3月11日、12日	60.2㎡	溝状遺構・土坑・ピット、土師器・須恵器	
13	成井山遺跡 集落跡 縄文～平安	志方町成井458番1、458番3	9月10日	4㎡	遺構・遺物なし	
14	加古川町大野地区	加古川町大野地内	9月11日	8㎡	遺構・遺物なし	試掘調査

番号	遺跡 ^{註1}	所在地	調査期間 ^{註2}	調査面積	調査概要	備考
15	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	神野町神野 348 番 1、348 番 2	9月17日～20日、 24日、25日	36.5 m ²	遺構なし、土師器	
16	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	平岡町新在家 149 番 1 の一部	10月9日	4 m ²	遺構・遺物なし	
17	佐伯寺跡 社寺跡 平安	東神吉町升田 1122 番 1	10月10日	6 m ²	遺構なし、土師器・須恵 器	
18	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	平岡町山之上 671 番 5 ほか	10月23日	4 m ²	遺構・遺物なし	
19	神野町西条地 区	神野町西条 946 番	10月26日	9 m ²	遺構なし、土師器・須恵 器	試掘調査
20	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	東神吉町砂部 354 番 100	10月30日	4 m ²	遺構・遺物なし	
21	加古川駅北地 区	加古川町寺家町、本町、篠原 町地内	10月31日	4 m ²	遺構・遺物なし	試掘調査
22	加古川町北在 家地区	加古川町北在家 570 番 1 ほか 7 筆	11月6日	8 m ²	遺構・遺物なし	試掘調査
23	野口町野口地 区	野口町野口 459 番 1	11月13日	9 m ²	遺構・遺物なし	試掘調査
24	稲屋構居跡 城館跡 中世	加古川町稲屋 776 番 1 の一部	11月15日	4 m ²	遺構・遺物なし	
25	野口町水足地 区	野口町水足 1 番 32 ほか	11月20日、21日、 12月19日	43 m ²	遺構・遺物なし	試掘調査
26	井ノ口城跡 城館跡 中世	上荘町井ノ口 513 番 2	11月27日	4 m ²	遺構・遺物なし	
27	八幡町中西条 地区	八幡町中西条地内	12月3日～20日	120.5 m ²	土坑・ピット・性格不明 遺構、土師器・須恵器	試掘調査
28	加古川町木村 地区	加古川町木村 5 番 33 ほか 4 筆	12月24日	6 m ²	遺構・遺物なし	試掘調査
29	西村遺跡 集落跡 弥生～平安	西神吉町西村 139 番 1	12月25日	4 m ²	遺構・遺物なし	
30	西条 31 号墳 古墳 古墳	西条山手二丁目 5 番 9	1月9日	6 m ²	遺構・遺物なし	
31	加古川町間形 地区	加古川町美乃利地内	1月15日～27日	80 m ²	ピット・性格不明遺構、 土師器・須恵器	試掘調査
32	野口院寺 社寺跡 奈良	野口町野口 352 番 7	2月3日、4日	47 m ²	遺構・遺物なし	
33	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町美乃利 525 番 31	2月7日	4 m ²	性格不明遺構、弥生土器・ 土師器・須恵器	
34	野口町北野地 区	野口町北野 23 番 3 ほか	2月18日	8 m ²	遺構・遺物なし	試掘調査
35	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口 228 番 1	2月19日	8 m ²	遺構なし、土師器・須恵 器	
36	長砂遺跡 集落跡 弥生	野口町長砂 1094 番 13	2月27日	4 m ²	遺構・遺物なし	

註1：試掘調査については、遺跡の名称及び種類、時代ではなく地区名を記している。

註2：試掘・確認調査における調査期間には、その調査期間のほか、その後に実施した工事立会などの期間も含む。



図1 埋蔵文化財調査（本書報告分）位置図

調査報告 1 下村遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市八幡町下村字渡来 867 番 2
調査期間 令和元年 7 月 31 日
調査面積 8 m²
担当者 浅井達也・岡田美穂

1 調査に至る経緯

加古川市八幡町下村字渡来 867 番 2 において、個人住宅工事が予定された（図 2）。当該地は、下村遺跡の範囲内に該当していたため、開発者と事前協議を行い、埋蔵文化財の状況を確認するための確認調査を実施することになった。工事予定地の現況は造成地であるが、元来は水田耕作地であった。



図 2 調査位置図

2 調査の結果

工事予定地内に 2 m × 2 m (4 m²) の調査区を 2 か所設定し、確認調査を実施した（図 3）。工事予定地南側の道路上のマンホール蓋を仮の水準点（KBM = 0.0 m）として高さの基準とした。

調査区 1（図 4、写真 1・2）

工事予定地内北東に設定した調査区である。層序は盛土（1層）、耕作土（2層）、灰オリーブ色砂礫層（3層）、オリーブ黄色中粒砂層（4層）、オリーブ黄色シルト層（5層）、灰白色粘質土層（6層）の順にほぼ水平に堆積し、地表下 1.4 m で、にぶい橙色シルト砂層（8層）の地山層に達する。6層は遺物包含層であり、奈良時代から平安時代にかけての土師器・須恵器片が 70 点ほど散漫に出土した（図 5、写真 5）。

8層上面で平面精査を行い、部分的に地表下約 1.8 m まで掘削した結果、調査区北壁断面に褐灰色シルト層（7層）のピット 1 基を検出した。

調査区 2（図 4、写真 3・4）

工事予定地内西南に設定した調査区である。層序は盛土（1層）、耕作土（2層）、床土（3層）、オリーブ黄色中粒砂層（4層）、オリーブ黄色シルト層（5層）、灰白色粘質土層（6層）の順にほぼ水平に堆積し、地表下 1.4 m でにぶい橙色シルト砂層（7層）の地山に達する。6層は遺物包含層であり、奈良時代から平安時代にかけての土師器・須恵器片が散漫に出土した。出土量は調査区 1 より少なく、10 点ほどであった。部分的に地表下 1.5 m まで掘削したが、遺構は検出されなかった。

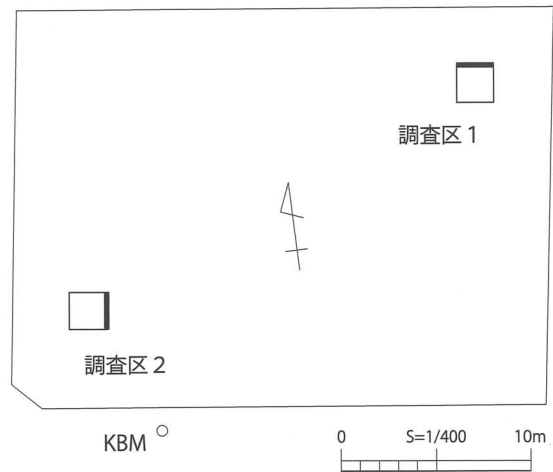


図 3 調査区配置図

3 まとめ

今回の調査は、弥生時代から平安時代の集落遺跡である下村遺跡の中央やや西南寄りに位置する場所での確認調査である。平成 26 (2014) 年度に当該地の西側近接地を工事立会し、複数の土師器・須恵器が出土し、それ以降数回にわたって遺跡内での確認調査を実施したが、明確な遺構は確認されていない。

今回調査の結果、調査区 1 から遺構・遺物が確認され、調査区 2 からは遺物が確認された。遺物包含層は、調査区 1・2 ともに同じ灰白色粘質土層 (6 層) であり、地表下 1.3 m 付近である。遺物の多くは、奈良時代から平安時代にかけての須恵器・土師器と考えられる。今回の工事予定地は、旧来の水田耕作土の上に盛土造成されていたため、埋蔵文化財が良好に残っていたものと思われる。

当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地であり、今回の調査においてピット 1 基を確認したものの、未だ遺跡の実態は不明のままである。

(岡田)

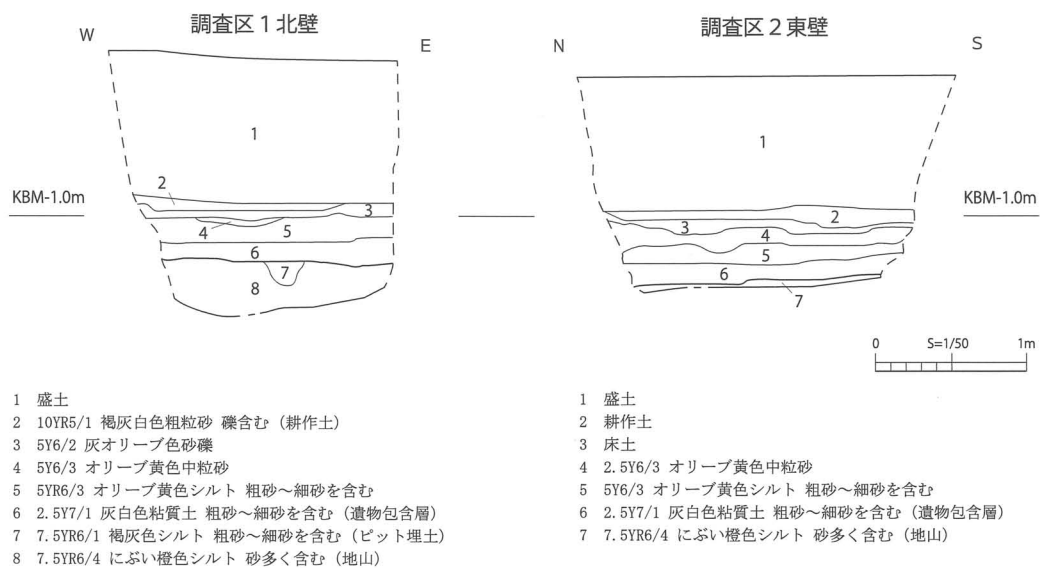


図 4 調査区 1・2 土層断面図

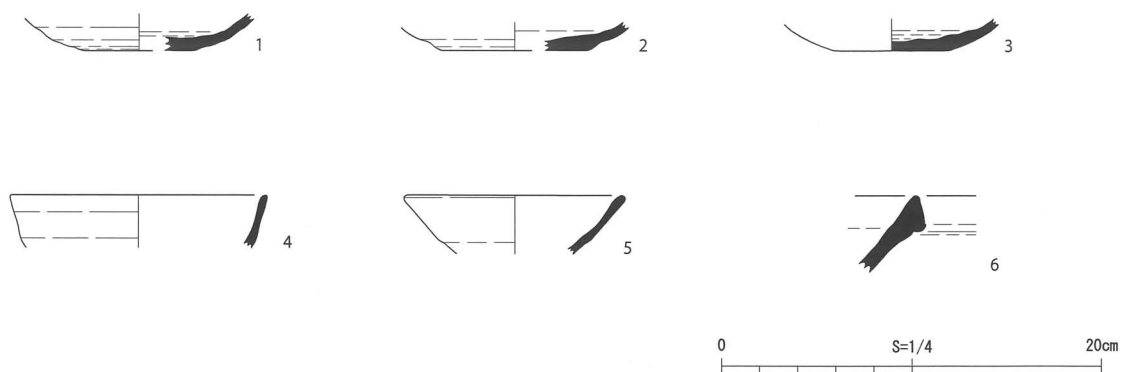


図 5 出土遺物



写真1 調査区1全景（南東から）



写真2 調査区1土層堆積状況（南から）



写真3 調査区2全景（北から）



写真4 調査区2土層堆積状況（西から）

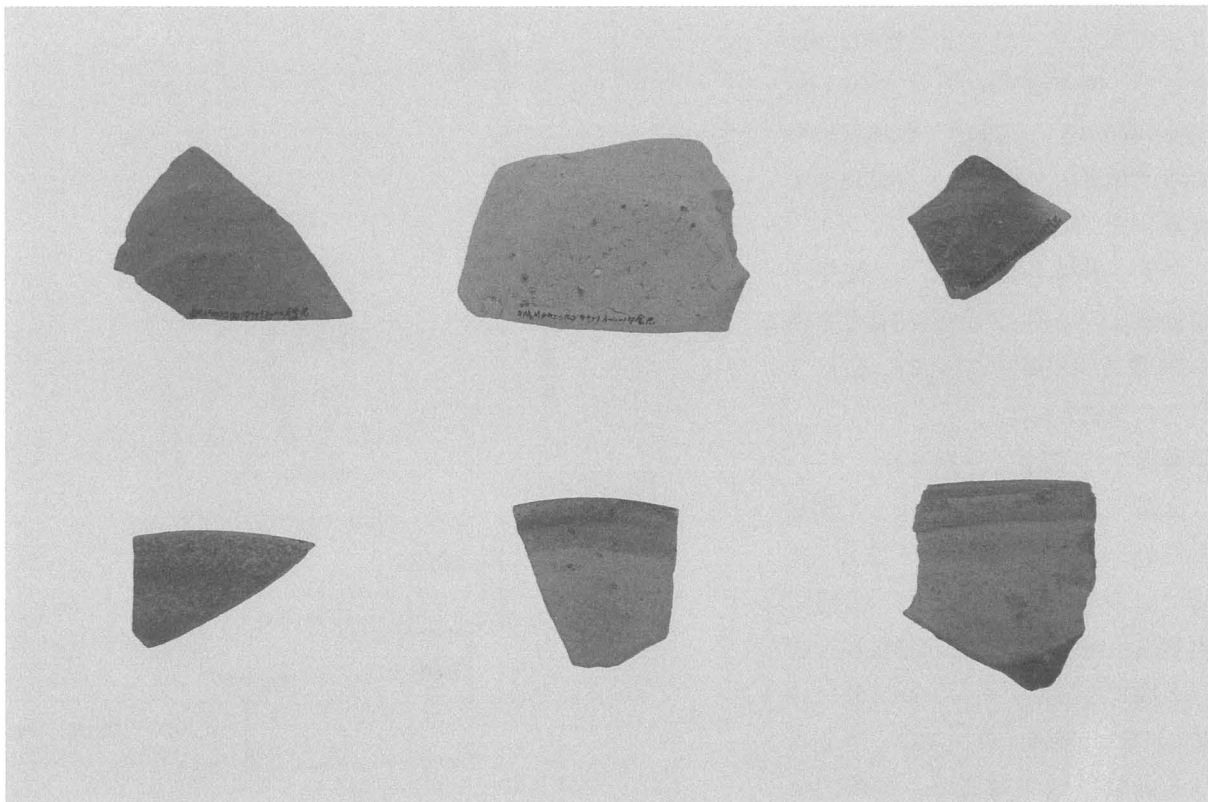


写真5 出土遺物

調査報告 2 岸城跡 確認調査報告

調査場所 加古川市西神吉町岸字古道 691 番 1 ほか 8 筆

調査期間 令和元年 9 月 4 日～6 日、11 月 12 日、
令和 2 年 3 月 11 日、12 日

調査面積 60.2 m²

担当者 山中リュウ・浅井達也・岡田美穂



図 6 調査位置図

1 調査に至る経緯

加古川市西神吉町岸字古道 691 番 1 ほか 8 筆において宅地造成工事が計画された（図 6）。この土地は、岸城跡（周知の埋蔵文化財包蔵地）の範囲内に該当していたため、開発者と事前協議を行い、埋蔵文化財の状況を確認するための確認調査を実施することとなった。

2 調査の結果

工事予定地内に調査区を設定するにあたって、近隣住民に聞き取り調査を行った。その結果、工事予定地内には元々池があり、それを最近になって埋め立てたことが判明した。そこで、聞き取りによって判明した「池の埋立地」を避け、それ以外の場所で調査区を設定し、確認調査を実施した（図 7）。

なお、調査全般を通じて、工事予定地西北の道路上の公共測量杭を仮の水準点（KBM = 0.0 m）として高さの基準とした。

調査区 1（図 8、写真 6）

工事予定地内北西に設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土（1 層）、にぶい黄橙色粗粒砂層（2 層）、明黄褐色粗粒砂に灰白色粗粒砂を含む砂層（3 層）、灰白色シルト層（4 層）の順に堆積する。地山と考えられる 4 層上面で精査し、最終的に GL-1.50 m まで掘削したが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

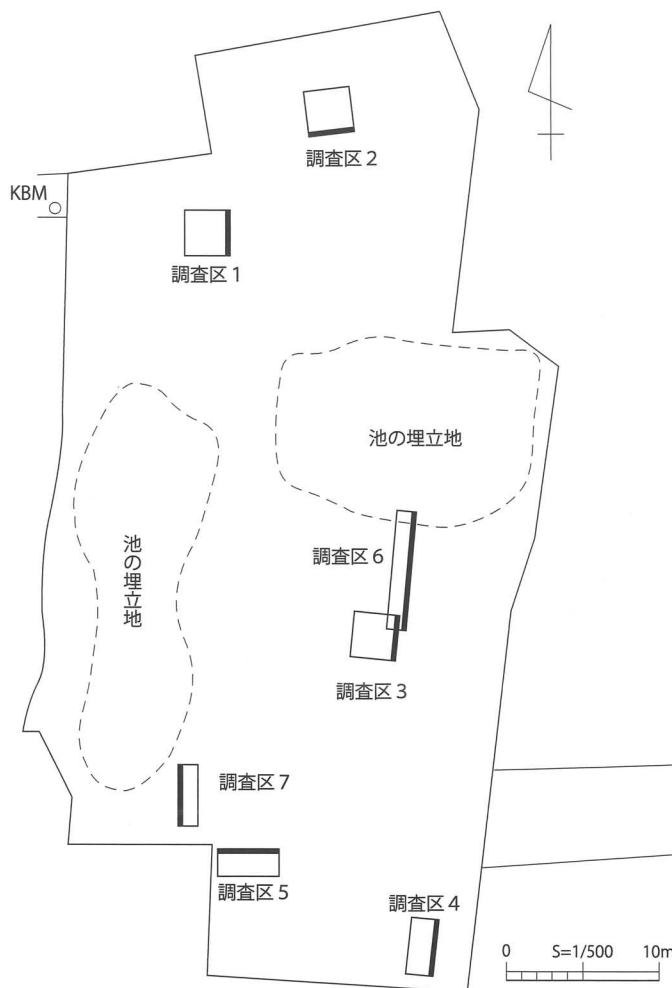


図 7 調査区配置図

調査区 2 (図 8、写真 7)

工事予定地内北側に設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土(1層)、褐灰色粗粒砂(2層)、にぶい黄橙色粗粒砂層(3層)、明黄褐色シルトに灰白色シルトを含む粗粒砂質シルト層(4層)が堆積する。地山と考えられる4層上面で精査し、最終的にGL-0.70 mまで掘削したが、遺構は確認されなかった。遺物は2層精査時に中世の瓦質土器片が1点出土した。

調査区 3 (図 9、写真 8・9)

工事予定地内中央付近に設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土(1層)、にぶい黄橙色粗粒砂(2層)、にぶい黄橙色細粒砂層(3層)、明黄褐色細粒砂層(4層)、灰白色シルトに褐色シルトを含む層(5層)がほぼ水平に堆積する。地山と考えられる5層上面(GL-0.34 m~-0.50 m)で精査し、土坑(SK) 2基、ピット(SP) 9基を検出した。なお、調査区北壁の断面観察により土坑(SK2)が4層上面から掘り込まれていることを確認したため、本来の遺構面は4層上面(GL-0.28 m~-0.40 m)の可能性がある。検出した遺構を掘削したところ、どの遺構も埋土は黄褐色砂質土でしまりがあり、SK1・SP2・SP6~SP9は埋土に炭化物が混じる。遺物は、SK1・SP1~SP4・SP6~SP8の8基から約20点出土しているほか、調査区南東隅の4層中から約50点出土した。遺構内を含めた出土遺物はいずれも中世頃の土師器・須恵器であり、土師器杯(図12-1)や須恵器甕などがみられる。

調査区 4 (図 8、写真 10)

工事予定地内南東隅に設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土(1層)、灰黄褐色粗粒砂(2層)、にぶい黄褐色砂質シルト(3層)がほぼ水平に堆積する。遺物包含層と考えられる3層上面(GL-0.20 m~-0.50 m)で精査し、土坑(SK) 2基、溝状遺構(SD) 1条を検出した。遺物は、SD上面から2点、3層上面から14点出土した。内訳は、中世土師器・瓦質土器の皿と甕の破片を中心とし、焼成粘土塊なども出土した。

調査区 5 (図 9、写真 11)

工事予定地内南西角地に設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土(1層)、灰黄褐色粗粒砂(2層)、にぶい黄褐色砂質シルト(3層)、明黄褐色粘質シルト(4層)がほぼ水平に堆積し、西側の崖付近は落ち込み土が堆積する。地山と考えられる4層上面(GL-0.40 m~-0.50 m)で精査し、土坑(SK) 3基、溝状遺構(SD) 2条、ピット(SP) 2基、性格不明遺構(SX) 1基を検出した。遺物は、SX上面から須恵器1点と、3層中から土師器・須恵器が約10点出土した。

調査区 6 (図 10、写真 12)

工事予定地内中央付近に設定した調査区3の北側に一部重複して設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土(1層)、にぶい黄橙色粗粒砂(2層)、にぶい黄橙色細粒砂層(3層)がほぼ水平に堆積し、調査区の北側は池の埋土が堆積する。地山と考えられる3層上面(GL-0.30 m~-0.40 m)で精査し、土坑(SK) 21基を検出した。遺物はSK12上面から中世の土師器羽釜片が1点(図12-3)と、SK14上面から土師器片が2点、SK15上面から須恵器片が1点(図12-2)出土し、3層精査時に陶器片が1点出土した。

調査区 7 (図 11、写真 13)

工事予定地内南西側に設定した調査区である。層序は褐灰色砂質土(1層)、にぶい黄橙色粗粒砂層(2層)、褐灰色シルトににぶい黄橙色シルトをまだらに含む粘質シルト層(7層)が堆積する。調査区北側には2層とは異なる造成土の灰黄褐色細粒砂層(3層)が残る。地山と考えられる7層上面(GL-0.50 m~-0.80 m)で精査し、性格不明遺構1基(SX1)、土坑1基(SK1)を検出した。遺物は、遺物包含層から土師器小片が1点、SX1の埋土(4層)から土師器・須恵器片が4点出土し、SK1の埋土(5層・6層)から須恵器が1点出土した。

3 まとめ

今回調査地は岸城跡の包蔵地内北側に位置する。本遺跡は中世城館として把握されているが、文献上その存在は確認されていない。今回調査では岸城が存在したと考えられる時期の遺構・遺物を確認した。これらが岸城と直接関連のあるものかはわからないが、これまで岸城跡の包蔵地内で遺構・遺物が確認された例はなく、貴重な成果が得られた。

調査区3・4・5・6・7において遺構・遺物を確認した。調査の結果から、南側の崖から北側の池跡までの30mと西側の池跡から敷地境界までの20mの範囲に遺構が集中しているものと判断できる。

(岡田)

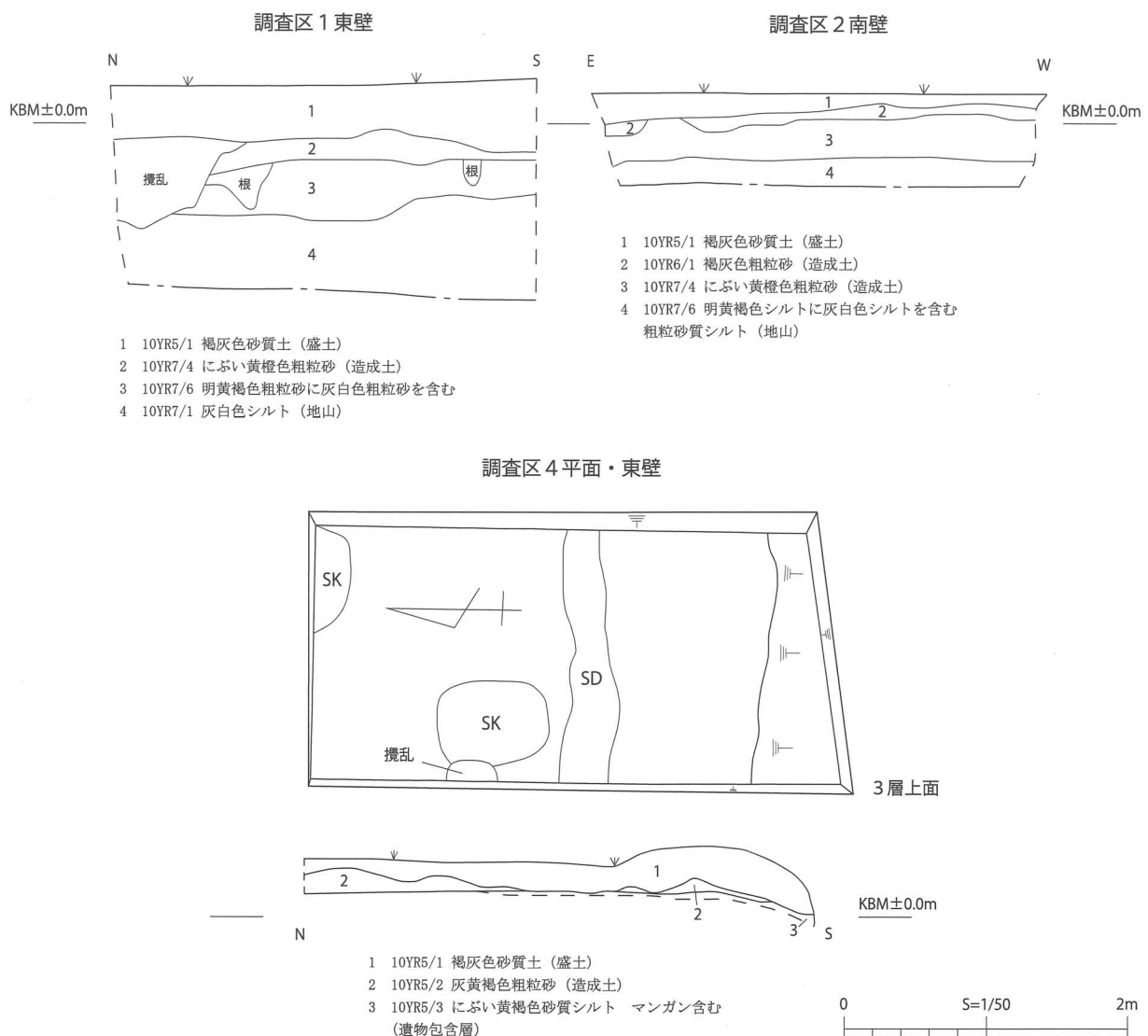
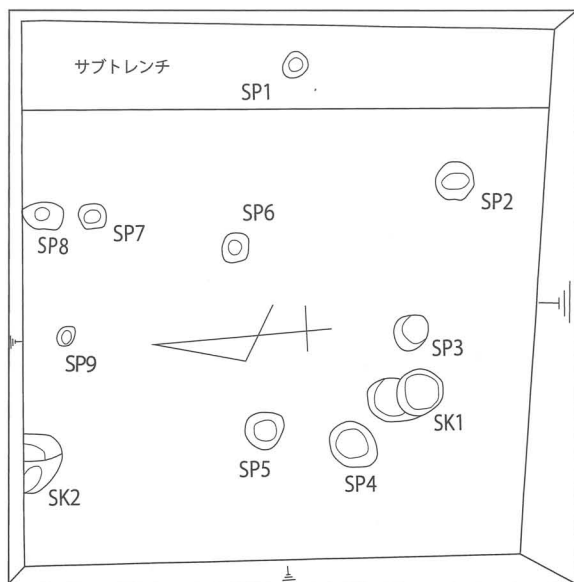


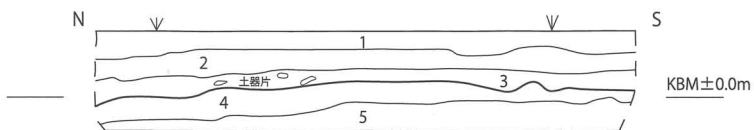
図8 調査区1・2土層断面図、調査区4平面図・土層断面図

調査区3平面・東壁

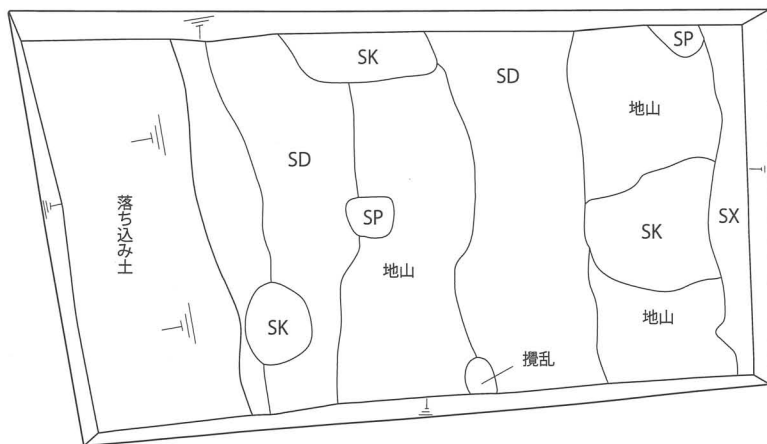


- 1 10YR5/1 褐灰色砂質土 (盛土)
- 2 10YR7/4 にぶい黄褐色粗粒砂 (造成土)
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 マンガン含む (遺物包含層)
- 4 10YR7/6 明黄褐色細粒砂 (遺構検出面) (南東隅に遺物多量含む)
- 5 10YR7/1 灰白色シルトに褐色シルトを含む(地山)

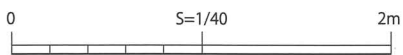
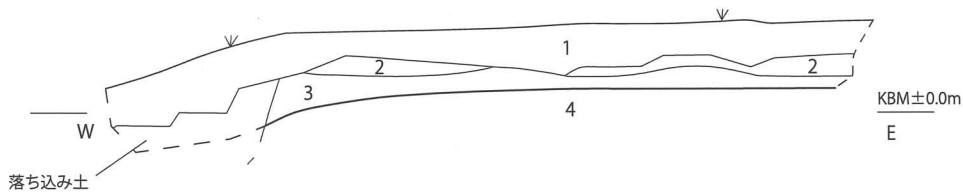
5層上面



調査区5平面・北壁



4層上面



- 1 10YR5/1 褐灰色砂質土 (盛土)
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粗粒砂 (造成土)
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト マンガン含む (遺物包含層)
- 4 10YR7/6 明黄褐色粘質シルト (遺構検出面)

図9 調査区3・5平面図、土層断面図

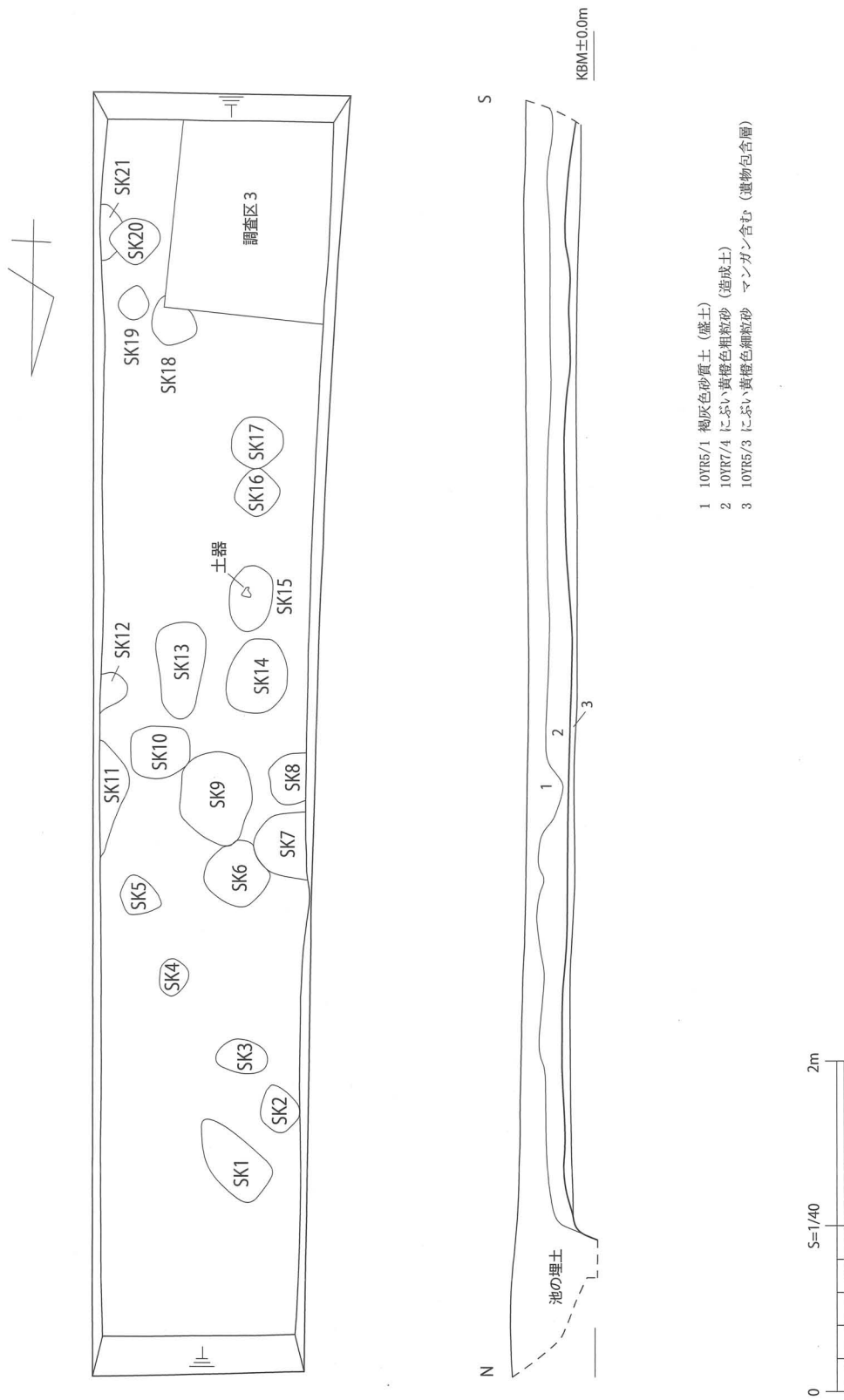


図10 調査区6平面図・東壁断面図

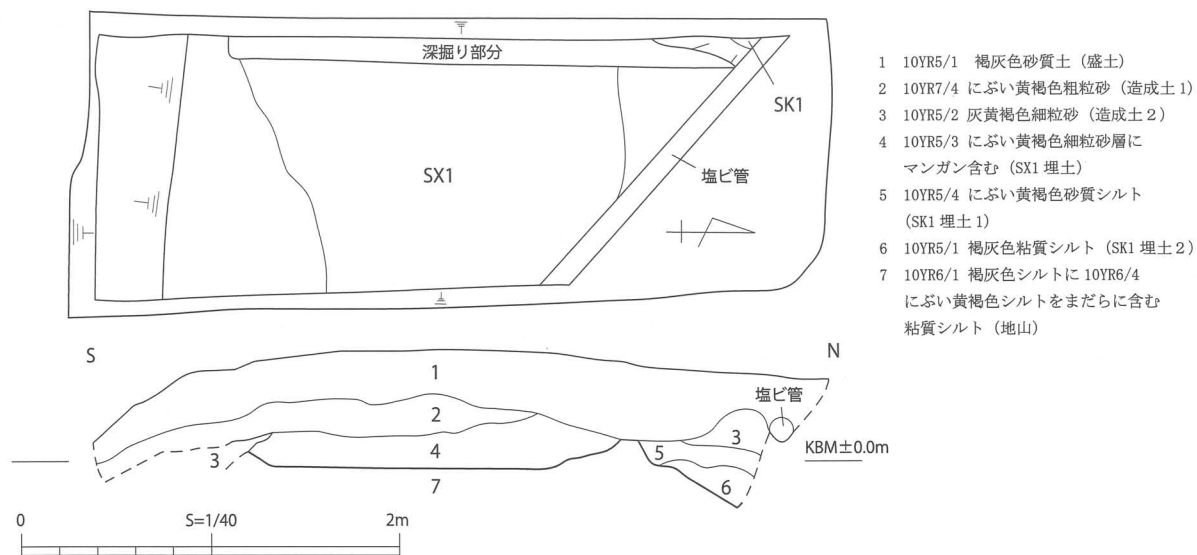


図 11 調査区7 平面図、西壁断面図

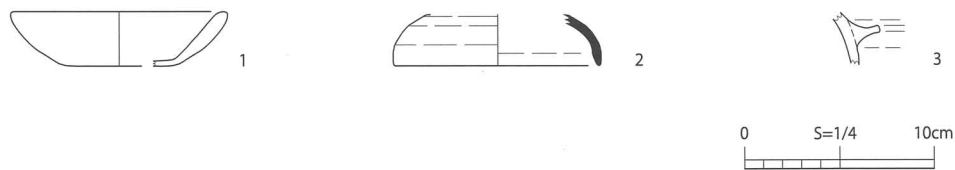


図 12 出土遺物



写真 6 調査区 1 土層堆積状況 (西から)

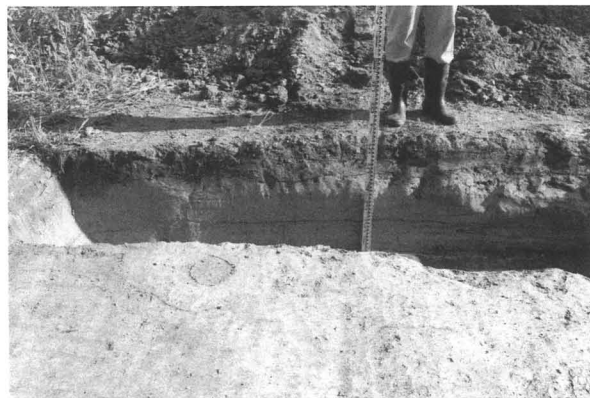


写真 7 調査区 2 土層堆積状況 (北から)



写真 8 調査区 3 土層堆積状況 (西から)



写真 9 調査区 3 全景 (北から)



写真10 調査区4遺構検出状況（西から）



写真11 調査区5遺構検出状況（南から）



写真12 調査区6遺構検出状況（西から）

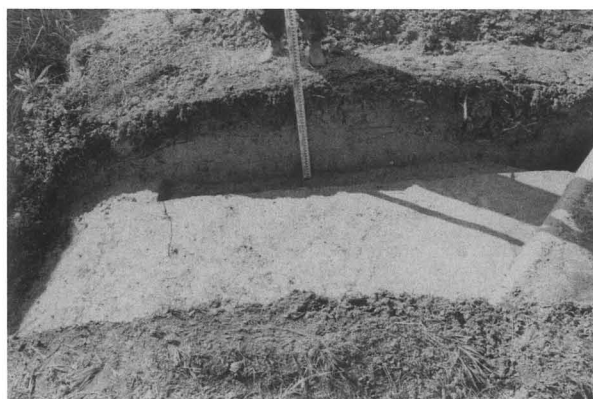


写真13 調査区7遺構検出状況（東から）

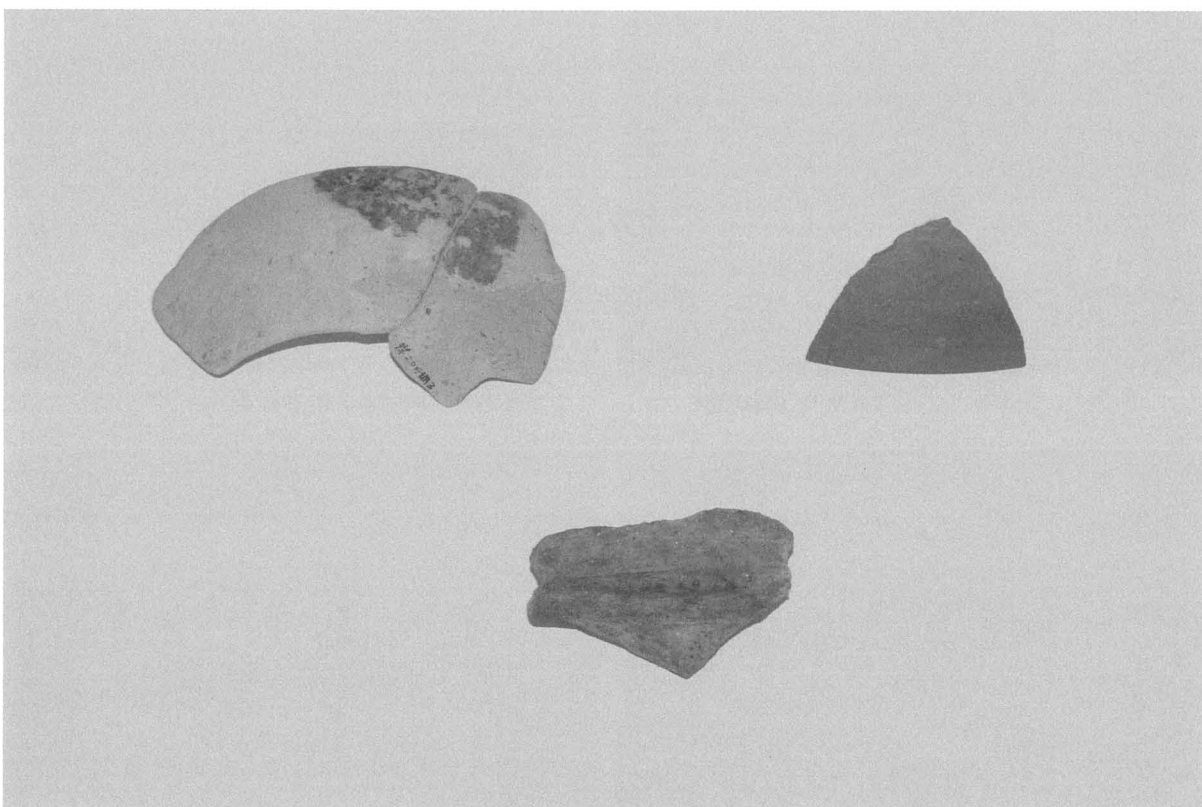


写真14 出土遺物

調査報告 3 美乃利遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市加古川町美乃利字鳴才 525 番 31
調査期間 令和 2 年 2 月 7 日
調査面積 4 m²
担当者 浅井達也・岡田美穂

1 調査に至る経緯

加古川市加古川町美乃利字鳴才 525 番 31 において個人住宅の建替工事が計画された (図 13)。この土地は美乃利遺跡 (周知の埋蔵文化財包蔵地) の範囲に該当していたため、開発者と事前協議を行い、埋蔵文化財の状況を確認するための確認調査を実施することとなった。



図 13 調査区位置図

2 調査の結果 (図 15、写真 15～17)

工事予定地内に 2 m×2 m (4 m²) の調査区を 1 か所設定し、確認調査を実施した (図 14)。工事予定地南側の道路上のマンホール蓋を仮の水準点 (KBM = 0.0 m) として高さの基準とした。

層序は、GL-0.85 m までが 1 層～3 層で、盛土、耕作土、床土が堆積する。その直下から遺物包含層となり、上から順に緑灰色粘質シルト (4 層)、オリーブ灰色粘質土 (5・6 層)、暗灰黄色粘質土 (7 層)、黄灰色粘質土 (8 層)、オリーブ褐色粘質土 (9 層) が GL-1.65 m までほぼ水平に堆積し、遺物が散漫に出土した。

地山と考えられる 13 層上面 (GL-1.65 m) で精査し、性格不明遺構 (SX) を検出した。調査区南西壁沿いを深掘りした結果、遺構埋土として黒褐色粘質土 (10 層)、褐灰色粘質土 (11 層)、灰色粘質土 (12 層) を確認し、弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

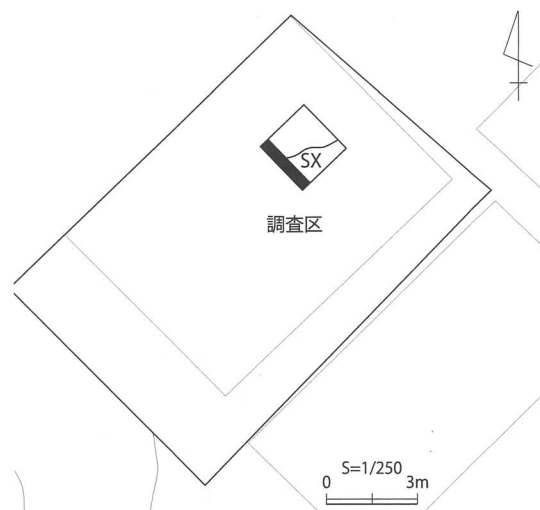


図 14 調査区配置図

3 まとめ

今回の調査地は、弥生時代から鎌倉時代の集落跡である美乃利遺跡の南西隅に位置する。確認調査において遺物包含層や SX 埋土から出土した遺物には、弥生時代から古代にかけての土器があり、弥生土器甕の底部 (図 16-1) などの破片が含まれる。地表下 1.65 m 付近から検出した SX は大部分が南側へ及んでおり、出土遺物から弥生時代頃の遺構と考えられる。

(岡田)

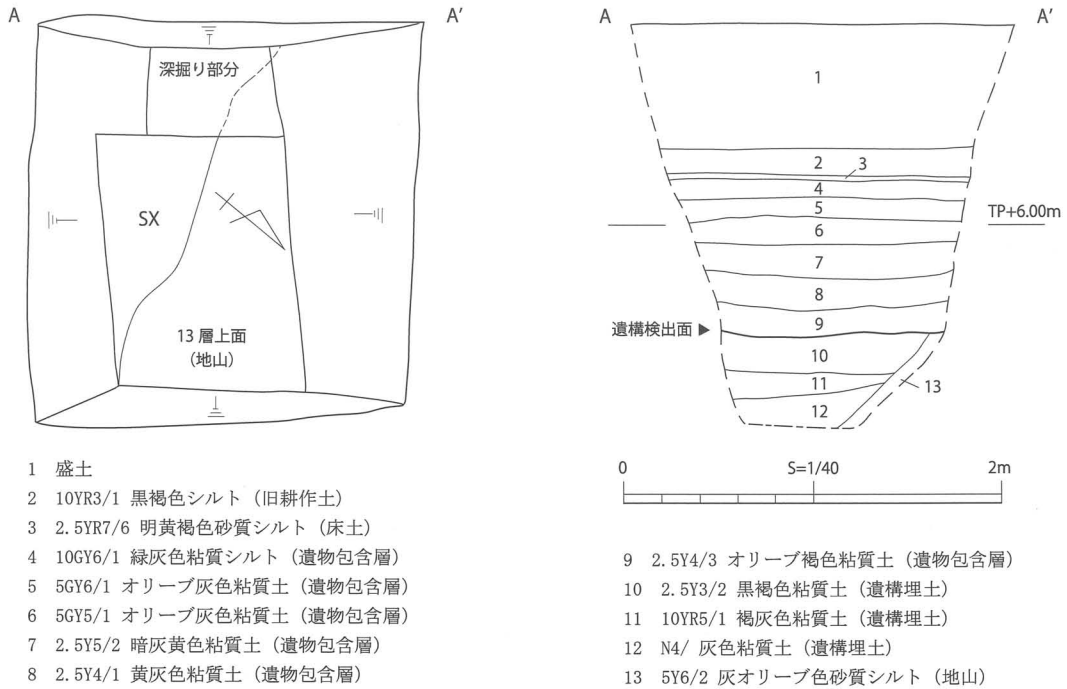


図 15 調査区平面図・南西壁断面図

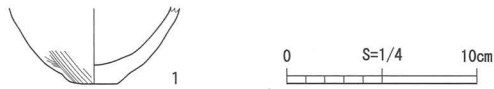


図 16 出土遺物

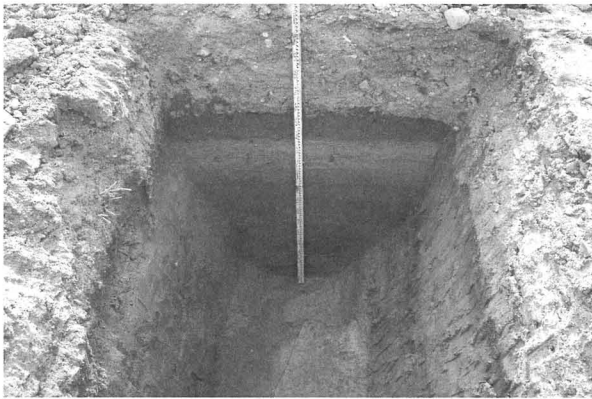


写真 15 調査区全景 (北東から)

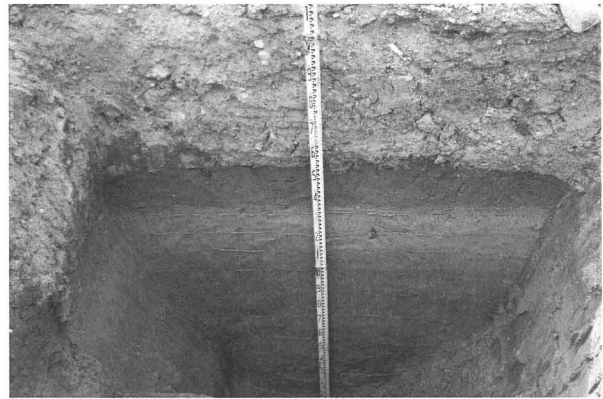


写真 16 調査区土層堆積状況 (北東から)



写真 17 遺構 (SX) 検出状況 (北東から)



写真 18 出土遺物

調査報告 4 金属製品保存処理 概要報告

はじめに

市内遺跡から出土した遺物は、一部の資料を除いて、基本的に加古川市教育委員会文化財調査研究センターの収蔵庫において保管・管理している。その大多数が、弥生土器や須恵器などの土器類、古墳から出土した各種埴輪、古代寺院から出土した瓦など、「土」を材質とするものであるが、なかには金属製品や木製品などの遺物も当然存在する。これらの遺物のうち、後者のものは外部の影響を受けやすく腐朽しやすいという性質をもつため、恒久的に残していくことを考えると保存処理が必要不可欠となる。

しかし、収蔵庫内の金属製品や木製品のなかには、保存処理が施されていない状態のまま長期間保管されているものもあり、このままでは腐朽が進行し、最終的に原形をとどめることができないものが出てくるのが危惧された。そのため、加古川市教育委員会では、令和元（2019）年度から国及び県の補助金を活用し、金属製品や木製品の保存処理を継続的に実施している。

1 金属製品保存処理工程

(1) 保存処理の経緯

令和元年度は、フジテクノ有限会社に業務委託を行い、令和元年9月18日から令和2年3月10日にかけて、計15点⁽¹⁾の鉄製品の保存処理を行った。

(2) 保存処理作業内容

フジテクノ有限会社によって実施された保存処理の作業内容は、以下のとおりである。

処理前調査・・・肉眼観察、処理前の写真撮影、エックス線撮影、所見作成

保存処理・・・クリーニング、脱塩処理、脱塩後のクリーニング、樹脂含浸、仕上げ処置、充填・補彩

処理後調査・・・処理後の写真撮影、処理後の観察、保存処理カード作成

2 保存処理金属製品

(1) 西条古墳出土鉄製品（図17・18）

収蔵庫において半裁された竹筒に置かれていた鉄刀2点と、この竹筒とともに木箱の中に一緒に置かれていた鉄鏃2点の保存処理を行った。「西条古墳鉄剣」及び「西条古墳鉄鏃」と書かれたカードがあることから、「西条古墳」から出土したものであることがわかる。しかし、現在の加古川市の遺跡台帳には「西条古墳」という古墳が存在していないため（加古川市教育委員会2010）、これらの鉄製品は、昭和38（1963）年以降の県営住宅地の造成工事によって消滅した西条古墳群約40基のうちのいずれかから出土した可能性が高いと考えられる。

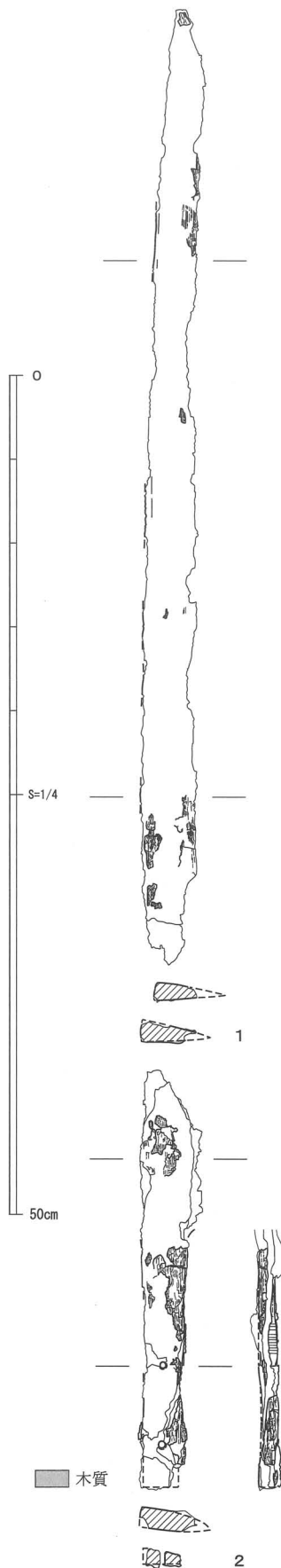


図 17 保存処理鉄製品 1

1 は、刀の切先部から刀身部にかけての破片である。全体的に銹化剥離が著しいものの、残存長 57.0cm、残存幅 3.3cm、刀身部厚 1.2cm 前後を測る。刀身部の一部には鞘のものとみられる木質が付着している。

2 は、刀の関部から茎部にかけての破片で、1 と同様に全体的に銹化剥離が著しく、歪みが生じている。残存長 25.0cm、刀身部残存幅 3.6cm、刀身部厚 1.2cm 前後、茎部幅 0.9cm 前後を測る。関部が欠損しているため、その形態や具体的な数値は不明であるが、茎部長は 15.8cm 前後と推測され、茎部には茎部端から関部に向かって 2.5cm と 7.2cm の位置に目釘孔が穿たれている。刀身部には、一部鞘のものとみられる木質の付着が認められる。また、茎部には把木と考えられる木質が付着しており、一部に糸巻の有機質が残る。

なお、直接接合する箇所はないものの、1 と 2 は同一個体の可能性がある。仮に同一個体とすると、全長は 82.0cm 以上となる。

3・4 は、長頸式鉄鏃⁽²⁾の頸部から茎部にかけての破片である。いずれも鏃身部を欠損しているため、鉄鏃の型式は不明である。3 は角関の頸部関をもち、残存長 6.9cm、頸部残存長 5.7cm、茎部残存長 1.1cm である。頸部、茎部ともに断面形は長方形で、頸部幅 0.7cm 前後、茎部幅 0.5cm を測る。4 は角関とみられる頸部関をもち、残存長 7.9cm、頸部残存長 4.2cm、茎部長 3.7cm である。頸部、茎部ともに断面形は長方形で、頸部幅 0.7cm 前後、茎部幅 0.2～0.5cm を測る。3・4 ともに茎部には矢柄の木質が付着している。

(2) 池尻 19 号墳出土鉄製品 (図 18)

池尻 19 号墳出土鉄製品については、鉄鏃 6 点の保存処理を行った。池尻 19 号墳は、平荘湖古墳群のなかのツ山支群に属する古墳で、加古川工業用水ダム建設に伴い昭和 39 (1964) 年 12 月から翌年 1 月にかけて発掘調査が実施された。埋葬施設に横穴式石室をもつ後期古墳で、鉄鏃のほか、須恵器、土師器、木製丸玉が出土している (加古川市教育委員会 1969)。

池尻 19 号墳から出土した鉄鏃はいずれも有頸平根式と考えられ、鏃身部関が角関で、鏃身部がふくらをもつ三角形のもの (5) と鏃身部に深い腸袂をもつもの (6・7・9) がある。

5 は、茎部端を欠くほぼ完形の鉄鏃で、残存長 10.1cm、鏃身部長 5.4cm、頸部長 2.0cm を測る。鏃身部は残存幅 2.7cm、厚さ 0.4cm 以上で、断面は両丸造である。頸部は幅 0.9cm、厚さ 0.4cm、断面形は長方形である。

6 は、茎部端を欠くほぼ完形の鉄鏃で、残存長 14.0cm、鏃身部残存長 6.2cm、頸部長 3.3cm を測る。鏃身部の断面は両丸造とみら

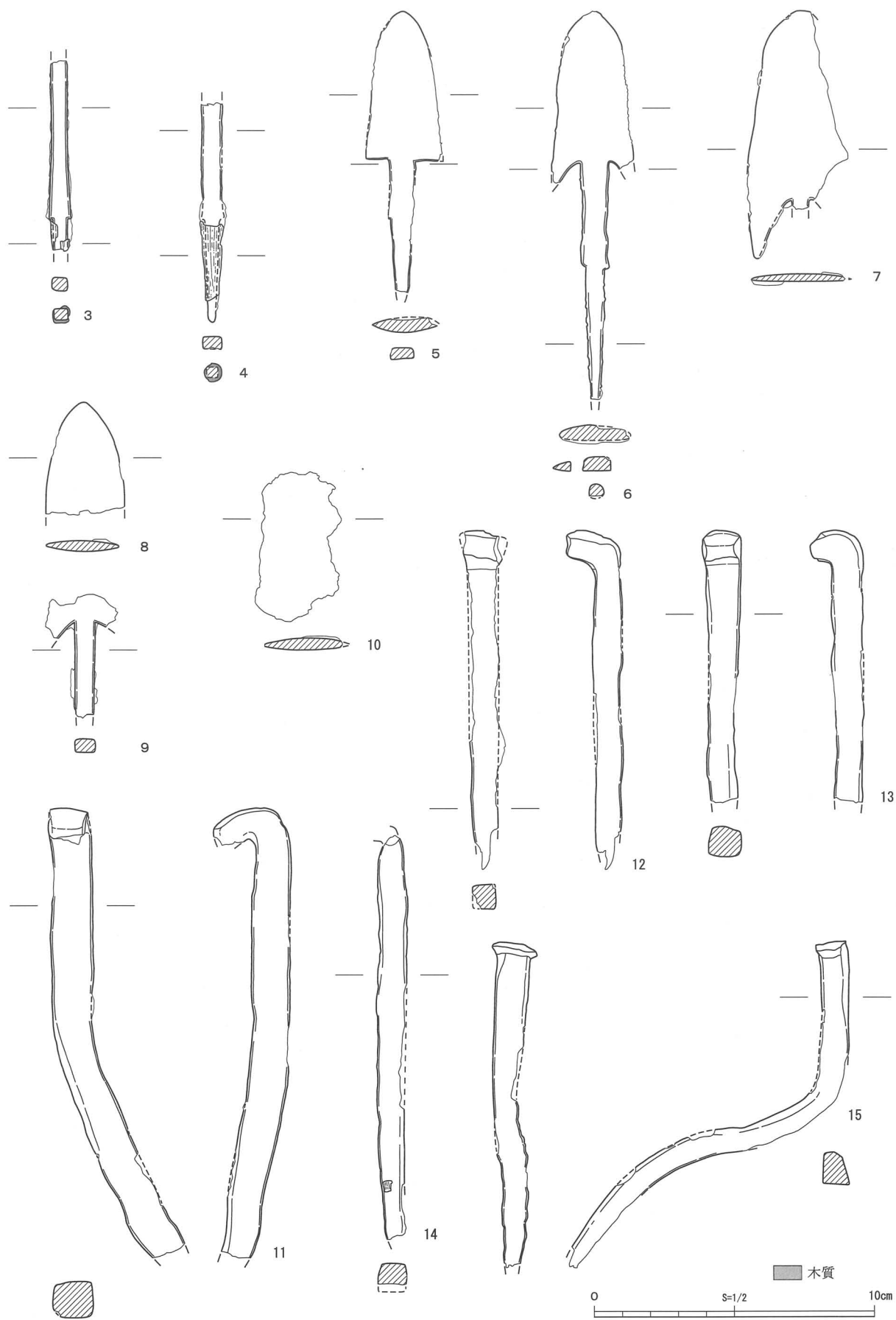


图 18 保存处理鉄製品 2

れ、残存幅 2.9 cm、厚さ 0.5 cmを測る。頸部は幅 0.9 cm、厚さ 0.4 cmで、断面形は長方形である。一方、茎部の断面形は円形で、径 0.6 cmを測る。

7は、鏃身部及び頸部の一部が残る鉄鏃片である⁽³⁾。形式的には6と同じ鏃身部に深い腸袂をもつ有頸平根式とみられるが、その形態は大きく異なる。鏃身部長 8.9 cm、鏃身部残存幅 3.6 cmと大型の鏃身部をもつ一方、その断面は平造で薄いつくりである。

8は、鏃身部端の破片である⁽⁴⁾。残存長 4.0 cm、残存最大幅 2.8 cm、厚さ 0.4 cmで、断面は両丸造である。その形態から、5もしくは6いずれかの型式の鉄鏃片と考えられる。

9は、鏃身部と頸部の一部が残る鉄鏃片で、鏃身部に深い腸袂をもつものとみられる。残存長 4.4 cm、頸部残存長 3.4 cmを測る。頸部断面形は長方形で、頸部幅 0.7 cm、頸部厚 0.5 cmを測る。

10は、鏃身部とみられる破片である。残存長 5.4 cm、残存幅 2.8 cm、厚さ 0.4 cmを測るが、遺存状態が悪いため、鉄鏃の形式及び型式は不明である。

(3) 野口廃寺出土鉄製品 (図 18)

野口廃寺出土鉄製品については、鉄釘 5 点の保存処理を行った。平成 6 (1994)・7 (1995) 年に実施された発掘調査で講堂跡や小堂跡、塔跡などが検出され、須恵器、土師器、各種瓦類などが出土し、飛鳥時代後期から平安時代にかけて営まれた古代寺院であることが明らかとなった (西川 2004)。鉄釘はおもに小堂跡周辺から出土したものである。

11は、体部端を欠くほぼ完形の鉄釘で、残存長は 16.7 cmである。頭部形態は、棒状の鉄の一方をそのまま折り曲げるものである。体部の幅・厚さは 1.3～1.4 cmで、断面形はほぼ方形である。

12・13は、いずれも体部端を欠くものの、ほぼ同形・同大の鉄釘である。残存長は 12 が 12.2 cm、13 が 9.8 cmである。頭部形態はいずれも棒状の鉄の一方をそのまま折り曲げるものである。体部の幅・厚さは 12 が 1.0 cm前後、13 が 1.1～1.2 cmである。断面形はともに方形である。

14は、頭部及び体部端を欠く鉄釘で、残存長は 14.5 cmである。頭部は欠損しているものの、11～13と同様、折り曲げるものとみられる。体部の一側面が剥離しているため、一部本来の数値が不明であるが、体部の幅・厚さは 1.0 cm前後で、断面形は方形と推定される。体部には一部木質の付着が認められる。

15は、体部端を欠く残存長 16.6 cmのほぼ完形の鉄釘であるが、体部が大きく湾曲している。頭部は頭部上方に向かって広がるような形態をしている。意図的にこのような頭部をつくりだしている可能性がある一方、その広がりやや不明瞭であることから、明確な頭部をつくりださない鉄釘を対象物に打ち込んだ際、頭部が潰れてこのような形態となった可能性もある。体部の幅・厚さは 1.0～1.2 cmで、断面形は歪な長方形である。

おわりに

以上、令和元年度に実施した金属製品の保存処理の概要について述べてきた。金属製品などの脆弱遺物は、発掘調査で出土した状態のままにしておく腐朽が進行することが往々にしてある。これらの遺物を後世に残していくためにも、今後も可能な限り継続して保存処理を実施していく予定である。また、保存処理を行った遺物については、その成果について多くの人々に知ってもらうことができるよう積極的に展示公開に努めていきたい⁽⁵⁾。

(平尾)

註

- (1) 当初、計 14 点の鉄製品について保存処理を行う予定であったが、保存処理作業途中、野口廃寺出土鉄釘のなかに別個体のものが含まれていることが確認されたため、最終的に保存処理を行った鉄製品は計 15 点となった。
- (2) 鉄鏃の分類にあたっては、おもに川畑純氏による分類を参考にした（川畑 2015）。
- (3) 保存処理前の資料事前確認段階において、「池尻 19 号墳鉄鏃」と書かれたカードと一緒に保管されており、また、報告書（加古川市教育委員会 1969）においても池尻 19 号墳出土鉄鏃として写真が掲載されていたため、池尻 19 号墳出土鉄鏃として保存処理を行った。しかし、それより前に刊行された報告書（加古川市教育委員会 1965）に掲載されている池尻 2 号墳出土鉄鏃の実測図のなかに、当該鉄鏃とみられるものがあった。そのため、当該資料については、池尻 2 号墳から出土した鉄鏃の可能性もあり、現時点ではいずれとも判断し難い。
- (4) 註（3）と同様、池尻 2 号墳から出土した鉄鏃の可能性がある。
- (5) 令和元年度に保存処理を実施した金属製品の大部分は、令和 3（2021）年 7 月 24 日から令和 4（2022）年 3 月 27 日にかけて加古川総合文化センター博物館で実施した企画展「発掘された加古川 - 近年発掘された加古川市の遺跡 -」において展示公開を行った。

参考文献

- 加古川市教育委員会 1965『印南野 - 加古川工業用水ダム古墳群発掘調査報告その 1 -』加古川市文化財調査報告 3 加古川市教育委員会
- 加古川市教育委員会 1969『印南野 - 加古川工業用水ダム古墳群発掘調査報告その 2 -』加古川市文化財調査報告 4 加古川市教育委員会
- 加古川市教育委員会 2010『加古川市遺跡分布地図第 3 版』加古川市文化財調査報告 22 加古川市教育委員会
- 川畑 純 2015『武具が語る古代史 - 古墳時代社会の構造転換 -』京都大学学術出版会
- 西川英樹 2004『野口廃寺発掘調査概要報告書』加古川市文化財調査報告 19 加古川市教育委員会

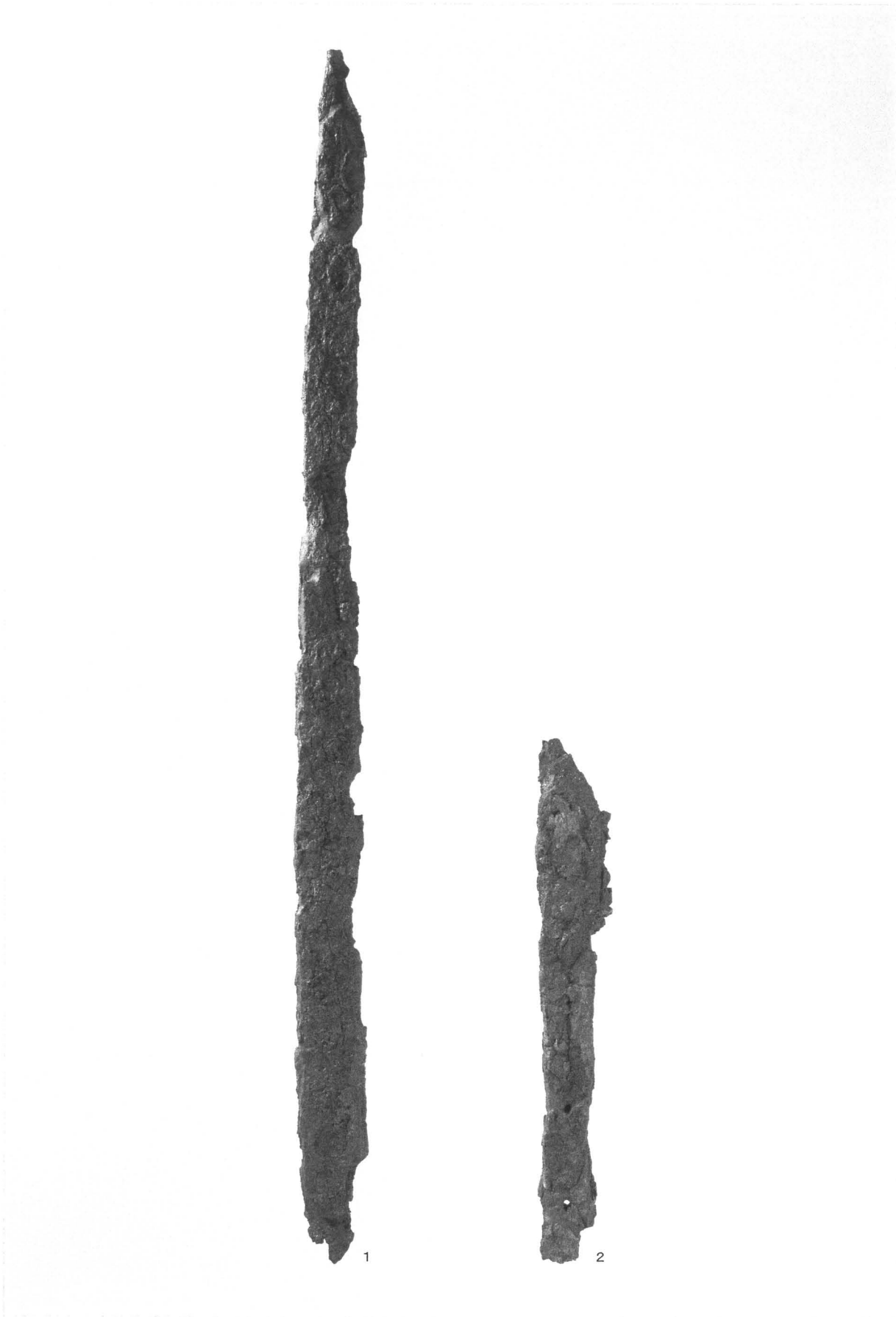


写真 19 保存処理鉄製品 1



写真 20 保存処理鉄製品 2



写真 21 保存処理鉄製品 3

第2章 文化財の保護と活用

1 指定・登録文化財

令和2（2020）年3月31日現在、市内の指定・登録文化財は、国指定23件（国宝2件、重要文化財21件）39点、県指定33件55点、市指定68件1423点、国登録9箇所37件である（表2）。

表2 指定・登録文化財種別・件数一覧

区分		種別	箇所数・件数	計	
国指定	国宝	建造物	2件	2件	23件
	重要文化財	建造物	4件	21件	
		絵画	5件		
		彫刻	6件		
		工芸品	5件		
		史跡	1件		
県指定	建造物	18件	33件		
	絵画	3件			
	彫刻	7件			
	工芸品	3件			
	書跡	1件			
	史跡	1件			
市指定	建造物	4件	68件		
	絵画	10件			
	彫刻	15件			
	工芸品	9件			
	書跡・典籍	6件			
	考古資料	16件			
	無形文化財	1件			
	民俗資料	2件			
	史跡	4件			
	天然記念物	1件			
国登録	建造物	8箇所36件	9箇所37件		
	記念物	1件			

(1) 市指定文化財の指定

文化財審議委員会において諮問し、答申を受けた「画文帯神獸鏡」の1件について、新たに加古川市指定文化財に指定した。

画文帯神獸鏡（里古墳出土）（巻頭図版）

名称及び数量 画文帯神獸鏡 1面

指定分類 考古資料

時代 古墳時代中期 5世紀

所在地 加古川市平岡町新在家1224番地の7
（加古川総合文化センター博物館）

管理者 加古川市教育委員会

指定年月日 令和2年3月12日



写真22 画文帯神獸鏡（里古墳出土）

指定理由 里古墳は、平荘町里に所在する全長45メートルの前方後円墳である。この青銅鏡は、平成9（1997）年度の発掘調査において、後円部墳頂部で確認された竪穴式石槨の痕跡付近から出土した画文帯神獣鏡である。鑄上がりの状態は悪く、各像は不明瞭となっているが、内区の神像がひとつの方向から見るように配置された同向式のもので、内区に西王母、東王父、伯牙、黄帝の四神と乳をめぐる四獣を配置し、内区外周に半円方形帯、外区に竜に曳かれた雲車、飛仙や神獣などと考えられる群像を描いた画文帯と菱雲文帯をめぐるせている。また、いわゆる同型鏡群の一種で、川西市勝福寺古墳第1号石室出土のものをはじめ、これまでに26面の同型鏡が確認されている。

初期の大型の画文帯神獣鏡は、ヤマト王権でたいへん重視されたと考えられている一方で、この鏡をはじめとする5世紀のいわゆる倭の五王の時代のものは、中国の南北朝時代に漢鏡をもとにして作られた踏返し模倣鏡とみられており、これらの鏡を入手した勢力が、これらの鏡が出土する地域と関係を深めたことを示す象徴的な器物と考えられている。

里古墳出土の画文帯神獣鏡は、古墳時代におけるこの地域の有力者と当時の中央勢力との関係を考える上で興味深いものであり、また、古墳に副葬された鏡の変遷を考える上で、学術的価値の高いものである。

2 市内遺跡事業（国庫補助事業）

国の文化財補助金事業として、市内遺跡などについて埋蔵文化財の記録の作成、保存に必要な資料を得るための発掘調査及び出土品の資料整理などを行った。内容は、開発に伴う本発掘調査、確認調査、試掘調査、分布調査である。事業費5,600千円（国費2,800千円、県費1,400千円）。

3 指定文化財保存管理補助事業

指定文化財である「鶴林寺の指定文化財」（鶴林寺）、「宮山遺跡」（上西条町内会）、「北大塚古墳」（西之山町内会）、「築山の榎」（国包伊勢講）の指定文化財保存管理事業に対して補助を行った。事業費640千円（補助額320千円）。

4 鶴林寺防災設備保守点検等事業（県費補助事業）

県費補助事業として、指定文化財保守管理のための自動火災報知機・消火栓設備の保守点検及び放水銃格納箱の取換え事業を鶴林寺が事業主体となって行った。事業費1,045千円（県費460千円）。

5 文化財説明板及び標柱の設置

市内所在の文化財についての情報発信及び周知徹底のため、文化財の説明板や標柱の設置を促進している。令和元（2019）年度は、下記のとおり説明板の新設（1件）・立替え（3件）、標柱の立替え（3件）を行った。令和元年度末時点での設置状況は、説明板178件、標柱164件である。

説明板の新設 「北野新田の寸倍石」

説明板の立替え 「石弾城跡」、「常福寺裏の石仏」、「教信寺の五輪塔」

標柱の立替え 「升田山1号墳」、「升田山2号墳」、「升田山3号墳」

6 本岡家住宅の公開及び活用

平成 10（1998）年に八幡町下村から東神吉町天下原の少年自然の家敷地内に移築保存された県指定有形文化財本岡家住宅については、事前に見学の予約を受けたうえで、水曜日の午前 10 時と午後 2 時、日曜日の午後 2 時に見学者を受け入れている。また、少年自然の家の無料散策日にも公開されている。

毎年、5 月 5 日のこどもの日に「こどもの日特別公開」を行っている。また、11 月下旬のひょうごヘリテージマンスに合わせて「秋の特別公開」を行っている。令和元年度の「秋の特別公開」は、11 月 24 日から 28 日まで及び 30 日に実施した。

令和元年度の本岡家住宅の利用状況は、表 3 のとおりである。前年度比は 848 人の増であった。



写真 23 本岡家住宅こどもの日特別公開

表 3 本岡家住宅月別利用者数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数（人）	75	483	379	372	14	0	140	534	354	0	191	0	2,542

7 歴史文化基本構想策定記念連続シンポジウム・文化財講座の開催

市民に加古川地域の歴史や文化財について理解を深めてもらい、文化財保護意識の高揚を図るため、毎年秋季に文化財講座を開催している。令和元年度においては、同年 3 月の「加古川市歴史文化基本構想」策定を記念し、全 4 回のシンポジウム・文化財講座「加古川市の歴史文化－保存と活用－」を開催した。各回の開催状況については、第 3 章に後述している。

8 『文化財ニュース』の発行

市内の文化財の状況を伝えるとともに市民の文化財保護意識の高揚を図るため、年に 1 度『文化財ニュース』を発行し、市内全戸へ配布している。令和元年度は『文化財ニュース』63 号を発行した。なお、バックナンバーを含めてこれまで発行してきた『文化財ニュース』は、加古川市のホームページで閲覧可能である。

9 『文化財解説シート』の発行

平成 21（2009）年度から平成 23（2011）年度の緊急雇用対策文化財資料整理事業の一環で作成していた市内文化財の個別の解説シートである『文化財解説シート』については、平成 29（2017）年度から作成を再開した。加古川市立中央図書館 2 階において無料配布しているほか、加古川市のホームページで閲覧可能である。

令和元年度は以下の文化財についての『文化財解説シート』を発行した。

通番 21 号（建造物 2）	本岡家住宅
通番 22 号（天然記念物 1）	築山の榎
通番 23 号（石造美術 17）	地徳寛墓地の石幢
通番 24 号（石造美術 18）	見土呂の宝篋印塔



写真 24 令和元年度発行『文化財解説シート』一覧

10 文化財関係団体との連携

「加古川市文化財保護協会」、「加古川文化遺産活性化実行委員会」、「加古川市文化財ガイドボランティア」など、文化財の保護又は活用を行っている諸団体の活動に対し、必要に応じて協力している。

令和元年度は、加古川文化遺産活性化実行委員会の推進する伝統文化親子教室事業（国庫補助事業）に対して協力を行った。内容は、市内の文化財保存関係団体への補助である。各関係団体は、以下のとおりである。

加古川西部茶道会、上ノ庄神社崇敬会、志方八幡宮馬力の会、下西条八幡神社神事獅子舞保存会、清保会、宗佐秋祭り保存会、都染屋台保存会、日本の伝統いけばな加古川会、野村祭り保存会、俳句西加古川会、平岡五色百人一首会、福谷神社神事保存会、福留日岡神社神事保存会、船町屋台保存会、萬代能楽塾、宮前獅子舞保存会（以上、五十音順）

11 資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾

令和元年度は、表4のとおり資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載を承諾した。

表4 資料貸出し、写真資料の貸出し及び掲載承諾一覧

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
1	貸出し	平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	溝之口遺跡出土弥生土器	6点	明石市立文化博物館	常設展での展示
2	貸出し	平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	行者塚古墳発掘調査図面・写真 行者塚古墳出土埴輪	1式	大手前大学史学研究所	行者塚古墳発掘調査資料の整理
3	掲載承諾	平成31年4月3日	行者塚古墳出土土器・土製品写真	1点	岩波書店	「前方後円墳とは何か」『シリーズ古代史をひらく 前方後円墳』への掲載
4	貸出し・ 掲載承諾	令和元年5月21日 ～ 令和元年11月17日	報恩寺参詣曼荼羅写真フィルム	1式	大和文華館	特別展「聖域の美 中世社境内の風景」での展示及び印刷物等への掲載
5	掲載承諾	令和元年6月27日	東車塚古墳出土三角縁神獸鏡3次元画像 勅使塚古墳出土仿製三角縁神獸鏡3次元画像 長慶寺山古墳出土内行花文鏡3次元画像 天坊山1号墳出土獸帯鏡3次元画像 志方官山古墳出土唐草文鏡3次元画像	1点 1点 1点 1点 1点	大手前大学史学研究所	「(仮称)リアル・バーチャル・ミュージアム」での一般公開

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
6	掲載承諾	令和元年7月2日	行者塚古墳出土土器・土製品写真	1点	堺市博物館	特別展「百舌鳥古墳群」での展示及び印刷物への掲載
7	貸出し・ 掲載承諾	令和元年7月25日	池尻2号墳出土須恵器はそう写真	1点	赤穂市立有年考古館	特別展「謎の氏族-秦氏~考古学からみたその実像~」での展示及び印刷物への掲載
			行者塚古墳東くびれ部写真	1点		
			行者塚古墳中央副葬品箱、西副葬品箱写真	1点		
			行者塚古墳西副葬品箱写真	1点		
			行者塚古墳出土帯金具（レプリカ）写真	1点		
		令和元年9月3日 ～ 令和元年12月10日	砂部遺跡出土須恵器蓋	1点		
			池尻2号墳出土鉄鏝	3点		
			池尻2号墳出土鉄釘	2点		
			池尻2号墳出土須恵器はそう	2点		
			カンス塚古墳出土金製垂飾付耳飾（レプリカ）	2点		
			カンス塚古墳出土須恵器壺	1点		
			カンス塚古墳出土須恵器高杯	1点		
			行者塚古墳出土帯金具（レプリカ）	7点		
行者塚古墳出土鉄鏝	1点					
行者塚古墳出土鉄鏝（模造品）	10点					
行者塚古墳出土巴形銅器	1点					
8	掲載承諾	令和元年9月2日	石町中世墓蔵骨器内埴仏出土状況写真	1点	珠洲市立珠洲焼資料館	特別展「珠洲焼-中世・日本海に華ひらいたやきもの之美-」での印刷物への掲載
			石町中世墓出土埴仏写真	1点		
			石町中世墓出土須恵器甕写真	1点		
9	掲載承諾	令和元年9月12日	行者塚古墳出土冪形埴輪写真	1点	兵庫県立考古博物館	特別展「埴輪の世界-埴輪から古墳を読みとく-」での印刷物等への掲載
			行者塚古墳出土土製供物写真	1点		
			行者塚古墳西造り出し写真	1点		
			行者塚古墳空中写真	1点		
10	掲載承諾	令和2年1月16日	カンス塚古墳出土金製垂飾付耳飾写真	1点	古代歴史文化協議会	第4回講演会「刀剣が語る古代国家誕生」講演録及び協議会ホームページへの掲載
11	掲載承諾	令和2年1月29日	溝之口遺跡関連図版（『木簡研究』第24号掲載）	1点	木簡学会	『木簡研究』への掲載及びインターネットでの公開
12	貸出し	令和2年2月1日	野口麿寺出土鴟尾	1点	奈良文化財研究所	第20回古代瓦研究会シンポジウムでの展示
13	掲載承諾	令和2年2月6日	八十の岩橋写真	1点	加古川観光協会	現地案内板への掲載
14	掲載承諾	令和2年3月3日	行者塚古墳出土冪形埴輪・冪形埴輪集合写真	1点	朝来市埋蔵文化財センター	特別展「但馬びとの祈り~そのカタチ、やおよろず~」での展示及び印刷物への掲載
15	掲載承諾	令和2年3月10日	行者塚古墳出土食物形土製品・冪形土器写真	1点	神戸新聞総合印刷	『兵庫の遺跡が語る まつりの古代史』への掲載

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
16	掲載承諾	令和2年3月17日	行者塚古墳西副葬品箱（南東から）写真	1点	堺市	堺市第9回百舌鳥古墳群講演会記録集『海を渡った交流の証しー遺物からみた5世紀の倭と朝鮮半島ー』への掲載
			行者塚古墳出土饗復元品写真	1点		
			行者塚古墳出土円形鏡板付饗復元品写真	1点		
			行者塚古墳出土長方形鏡板付饗復元品写真	1点		
			行者塚古墳後円部頂調査区実測図	1点		
			行者塚古墳中央副葬品箱出土状況図	1点		
			行者塚古墳西副葬品箱出土鉄鋌写真	1点		
			行者塚古墳西副葬品箱出土鉄製農具写真	1点		
			行者塚古墳出土帯金具写真	1点		
			行者塚古墳出土巴形銅器写真	1点		

12 資料調査などの受入れ

令和元年度は、表5のとおり資料調査などの受入れを行った。

表5 資料調査などの受入れ一覧

番号	年月日	調査者	所属	資料		目的
				遺跡	遺物	
1	令和元年5月7日 ～ 令和元年6月3日	個人	奈良大学	平荘湖古墳群	土師器、須恵器、鉄器など	学術研究
2	令和元年7月11日	個人	赤穂市教育委員会	砂部遺跡	須恵器	特別展準備
				池尻2号墳	鉄鋌、鉄釘、須恵器はそう	
				カンス塚古墳	金製垂飾付耳飾（レプリカ）、須恵器壺	
				行者塚古墳	帯金具（レプリカ）、鉄鋌、巴形銅器	
3	令和元年8月6日 ～ 令和元年9月20日	個人	大手前大学史学研究所	行者塚古墳	埴輪、土師器、土製品など	学術研究
4	令和元年8月9日	個人	（公財）兵庫県まちづくり技術センター	野口廃寺	瓦	学術研究
5	令和元年8月28日	個人	立命館大学	行者塚古墳	鉄鋌、鋤鋏先、鉄鎌、穂摘具、鉄斧	卒業論文執筆
6	令和元年10月30日	個人	京都大学大学院	東車塚古墳	石釧	修士論文執筆
7	令和元年11月7日	個人	早稲田大学會津八一記念博物館	東車塚古墳	石釧	論文執筆
8	令和元年12月11日	個人	堺市博物館	行者塚古墳	鉄鋌	特別展準備
					類当状鉄製品	
					鋸	
					巴形銅器	
					馬具（復元品）	
					帯金具	
9	令和2年1月7日	個人	和歌山県立紀伊風土記の丘	行者塚古墳	土製品	特別展準備
					土師器壺・高杯	
					家形埴輪	
					甲冑形埴輪	
					冪形埴輪	
					舟形土製品	
10	令和2年3月5日 ～ 令和2年3月26日	個人	大手前大学史学研究所	行者塚古墳	出土資料一式	学術研究

13 講師の派遣など

市民に地域の歴史や文化財についての理解を深めてもらい、また文化財保護意識の高揚につながるよう、文化財に係る講演会、見学会などの事業に対して講師の派遣などを行っている。令和元年度は、表6のとおり講師の派遣などを行った。

表6 講師派遣など一覧

番号	年月日	派遣職員	派遣先	内容
1	令和元年5月8日	浅井達也	神野小学校	行者塚古墳の現地解説
2	令和元年6月13日	宮本佳典	加古川総合文化センター	兵庫大学共通教育機構「地域と文化財」に係る施設見学案内
3	令和元年11月1日	山中リュウ	陵南公民館	講演「石守庵寺から古代の加古川地域を考える」
4	令和元年11月4日	宮本佳典	里地区まちづくり協議会	講演「里の歴史と文化財について」
5	令和元年12月15日	宮本佳典	高砂市立図書館	講演「近世曾根の美術～曾我蕭白を中心として」
6	令和2年1月8日	平尾英希	兵庫県学校厚生会東播支部	講演「掘り起こされた東播磨の歴史あれこれー鉄製品からみた古代の東播磨ー」

14 「トライやる・ウィーク」の受入れ

兵庫県では、平成10（1998）年度から公立中学校2年生を対象に、生徒たちが地域での様々な体験活動を通じて働くことの意義や楽しさを実感するとともに、生徒の自主性や自立性等を育むことを目的とした「トライやる・ウィーク」を実施している。

文化財調査研究センターでは実施当初から生徒の受入れを行っており、令和元年度は6月3日から7日までの5日間、加古川市立平岡中学校の生徒3名を受け入れた。体験内容は、博物館施設等の見学、古墳や寺社仏閣等における文化財巡視、本岡家住宅の清掃、土器の洗浄や接合、拓本といった埋蔵文化財の資料整理などである。

（古林）

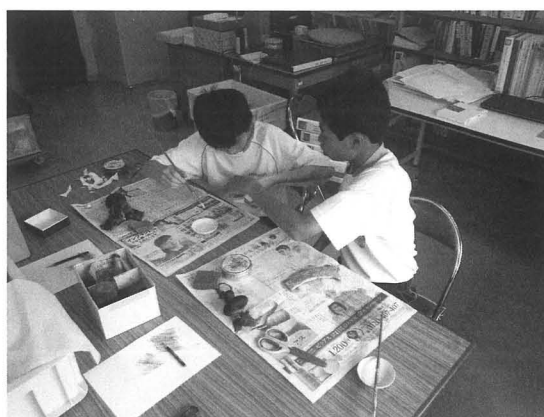


写真25 「トライやるウィーク」活動状況

第3章 歴史文化基本構想策定事業

1 はじめに

文化財保護行政、観光振興行政、まちづくり行政を進めていく中で、地域の歴史文化を資源として考え、その保存と活用を図るための基本計画としての「加古川市歴史文化基本構想」（以下、「構想」という。）を策定するために、平成29年（2017）度から令和元年度までの3か年の計画で、歴史文化基本構想策定事業に取り組み、令和元（2019）年度はその3年目で最終年であった。

なお、1年目である平成29年度は、「構想」を策定するための事前把握及び基礎調査を実施し、「構想」の素案を作成し、2年目である平成30（2018）年度は、前年度から引続き「構想」を策定するための基礎調査を実施するとともに、前年度に作成した「構想」（案）をもとに、策定委員会を開催し専門家の意見によって修正し、さらに、パブリックコメント等による修正を行い、平成31（2019）年3月14日に加古川市教育委員会の議決を経て「構想」を策定している。

2 事業内容

令和元年度は、前年度末に策定した「構想」の内容を市民に広く伝えるための「シンポジウム等の開催」と「情報発信」の事業を実施した。

（1）説明会等の開催（シンポジウム等の開催）

平成29年度の事前把握及び調査を踏まえた加古川市の歴史文化の状況及び平成30年度の歴史文化基本構想策定委員会等の検討を踏まえた関連文化財群の考え方等を、歴史文化を活かしたまちづくり関係者、文化財関係者及び市民に広く伝えるため、11月及び12月に4回の連続シンポジウム・文化財講座を開催した。内容は以下のとおりである。いずれの回も基調講演後、テーマに基づいた短時間のシンポジウムを実施した。

- 第1回 日時 11月16日（土）午後2時から午後4時まで
テーマ 「『播磨国風土記』と古代の交通～伝承・道・賀古駅家・ミナト～」
基調講演1 「古代の印南野台地をめぐる水陸交通路」
坂江 渉（兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室 研究コーディネーター）
基調講演2 「『播磨国風土記』の印南野伝説と倭王権」
高橋明裕（ひょうご歴史研究室客員研究員・立命館大学非常勤講師）
- 第2回 日時 11月30日（土）午後2時から午後4時まで
テーマ 「中世の加古川～鶴林寺、宿、守護所、石塔、石棺仏～」
基調講演1 「中世の加古川」
金子 哲（兵庫大学共通教育機構教授）
基調講演2 「文化財ガイドボランティアからみた鶴林寺」
藤 博幸（加古川文化財ガイドボランティア代表）
- 第3回 日時 12月7日（土）午後2時から午後4時まで
テーマ 「加古川の景観と歴史文化～宿場町、近代建築、水路～」
基調講演1 「歴史文化を活かしたまちづくり」
村上裕道（京都橘大学文学部文化遺産学科教授）
基調講演2 「加古川の歴史的建築と景観」
尾瀬耕司（神戸建築文化財研究所代表）

第4回 日時 12月14日(土) 午後2時から午後4時まで
テーマ 「古代東アジア世界からみた加古川の古墳」
基調講演 「古代東アジア世界からみた加古川の古墳」
吉井秀夫(京都大学大学院文学研究科教授)
解説 「加古川地域の古墳について」
上月昭信(加古川市文化財審議委員)

加古川市の歴史文化について理解を深め、今後、文化財の保護と活用をとおしてのまちづくりについて考える契機となるよう、「構想」の6つの基本ストーリー「1 加古の流れ～川と平地と丘陵に育まれた自然と歴史～」 「2 宿の賑い～山陽道の駅、宿、舟運～」 「3 石と信仰～古墳の石棺と中世の石造群～」 「4 仏と神と鬼と人～伝説、祭礼、社寺に伝わる文化財～」 「5 水を治める～ため池・用水路と農村文化～」 「6 近代化の風景～赤れんが、洋館、近代遺産～」 について、より興味が深まる内容で、参加者数は、延 474 人(1回目 120 人、2回目 121 人、3回目 110 人、4回目 123 人)であった。

(2) 情報発信

平成30年度に検討し作成した「構想」の冊子290部を印刷し、関係機関に配付するとともに、そのデータを市のHPに掲載した。また、広く市民に「構想」について理解していただき今後の協力を求めるため「構想」の概要版3,000部を印刷し、関係機関、学校、団体等をとおして市民に配布するとともに、そのデータを市のHPに掲載した。

3 決算

収入の部	1,458,766 円	
(内訳)	1,451,000 円	国庫補助金(文化芸術振興費補助金、文化遺産総合活用推進事業)
	7,766 円	加古川市自己負担金
支出の部	1,458,766 円	
説明会等の開催	731,591 円	連続シンポジウム開催
(内訳)	189,400 円	構想策定事業関係事務補助員等賃金
	215,000 円	報償費(シンポジウム講師等謝礼)
	11,920 円	旅費(シンポジウム講師等費用弁償)
	96,662 円	役務費(構想策定事業関係コピー機使用料)
	42,096 円	通信運搬費(シンポジウムポスター・チラシ送付郵便料)
	176,513 円	需用費(シンポジウム看板・ポスター・チラシ・事務消耗品)
情報発信	727,175 円	構想策定
(内訳)	99,900 円	通信運搬費(構想等送付郵便料)
	627,275 円	需用費(「構想本編」・「構想概要版」印刷製本費)

その他、「歴史文化基本構想策定事業」外の経費として、加古川市文化財審議委員等の講師等謝礼として120,000円を「文化財の保護に要する一般的経費」の予算(文化財講座開催)から支出している。

(宮本)



写真 26 連続シンポジウムポスター

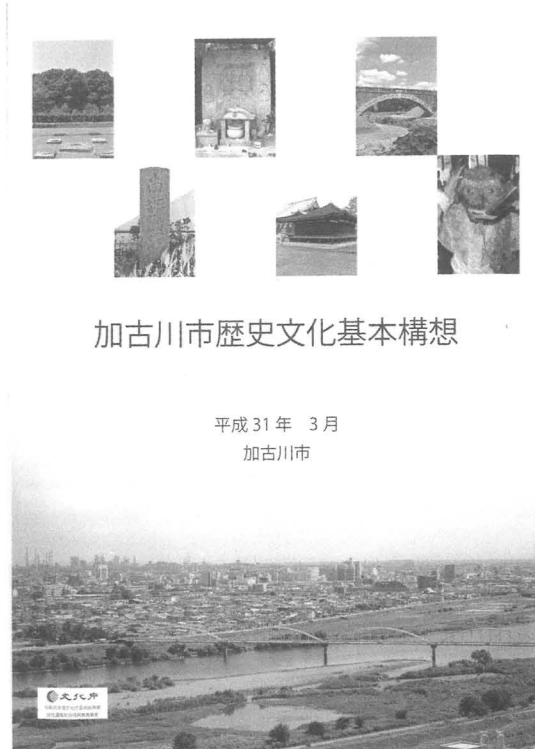


写真 27 「加古川市歴史文化基本構想（本編）」表紙



写真 28 連続シンポジウム・文化財講座 各回開催状況

第4章 文化財審議委員会

1 委員

「加古川市文化財の保護に関する条例」に基づき、文化財の保存及び活用について審議するための附属機関として文化財審議委員会を設置している。令和元（2019）年度における各委員の氏名、主な専門分野、所属は以下のとおりである。

委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
副委員長	金子 哲	歴史学、中世史	兵庫大学共通教育機構教授
委員	魚津知克	考古学、歴史学	大手前大学史学研究所主任
委員	上月昭信	考古学、郷土史	兵庫県文化財保護指導委員
委員	友久伸子	考古学、郷土史	日本考古学協会会員
委員	岡田 功	郷土史、歴史資料	加古川史学会
委員	荘所直哉	建築学、建造物	明石工業高等専門学校建築学科准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学人間社会学部准教授

2 会議

- 第1回
- 日時 令和元年6月14日（金）午後2時から午後3時15分まで
- 場所 教育委員室（加古川市役所新館8階）
- 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、魚津委員、上月委員、荘所委員、友久委員、藤原委員
- 内容
- 平成30（2018）年度文化財関係事業及び決算について
 - 令和元年度文化財関係事業及び予算について
 - 歴史文化基本構想策定事業について
 - その他、指定文化財候補及び文化財行政に係る意見交換など
- 第2回
- 日時 令和元年12月16日（月）午後2時から午後3時15分まで
- 場所 教育委員室（加古川市役所新館8階）
- 出席者 茂渡委員長、金子副委員長、岡田委員、上月委員、荘所委員、友久委員、藤原委員
- 内容
- 加古川市指定文化財指定申請に係る審議について
 - ・画文帯神獸鏡 1面（里古墳出土）（加古川市教育委員会所蔵）
 - 加古川市指定文化財等の状況について
 - ・市指定文化財「播州印南郡報恩律寺七堂図（参詣曼荼羅図）」に係る所在場所変更届出について
 - 文化財関係事業について
 - ・令和元年度上半期を中心とした事業等の進捗状況について
 - その他、文化財等に係る情報交換など

- 第3回 日 時 令和2（2020）年1月31日（金）午後2時から午後4時まで
場 所 鶴林寺、加古川総合文化センター
出席者 茂渡委員長、金子副委員長、岡田委員、上月委員、友久委員、藤原委員
内 容 ○加古川市指定文化財指定申請に係る審議について
・画文帯神獸鏡 1面（里古墳出土）（加古川市教育委員会蔵）
○加古川市指定文化財の状況について
・市指定文化財「縹糸胸取金茶威二枚胴童具足」に係る所在場所変更届出
について
○鶴林寺の防災設備状況視察
○その他、文化財及び文化財行政に係る意見交換など

（古林）

第5章 文化財関係の事務処理

1 指定・登録文化財事務

(1) 指定文化財の所在場所変更届出

令和元（2019）年度は、表7のとおり加古川市指定文化財の所在場所変更届出の処理を行った。

表7 指定文化財所在場所変更届出一覧

番号	名称	員数	区分	変更の目的	変更前所在場所	変更後所在場所	期間	文書番号
1	播州印南郡報恩律寺七堂図（参詣曼荼羅図）	1幅	市指定	特別展「聖域の美 中世社境内の風景」での展示	平荘町山角 466 番 1	奈良県奈良市学園南 1 丁目 11 番 6 大和文華館	9月11日 ～ 11月30日	加教文第 768 号
2	縹糸胸取金茶威二枚胴道具足	1領	市指定	日本甲冑武具研究保存会「日本の甲冑・武具・武器展～武家社会の文化より～」での展示	平岡町西谷 18 番	大阪府堺市東区北野田 1084 番 136 堺市立東文化会館	2月4日 ～ 3月29日	加教文第 1995 号

2 埋蔵文化財事務

(1) 埋蔵文化財包蔵地の照会

令和元年度における埋蔵文化財包蔵地の照会件数は 2,515 件（昨年度比 -36 件）であった。その内訳は、事業者による計画前の照会が 2,339 件、建設予定地に関する事前合議等が 101 件、開発事業に関する事前協議等が 75 件である。

(2) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知

令和元年度における文化財保護法第 93・94 条に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知の処理件数は、126 件（昨年度比 -20 件）であった（表 8）。このうち、第 93 条に基づく発掘届出は 117 件、第 94 条に基づく発掘通知は 9 件である。工事目的の内訳は、住宅 24 件、個人住宅 46 件、工場 1 件、店舗 1 件、その他建物 6 件、宅地造成 4 件、公園造成 1 件、水道・ガス・電気 35 件、農業基盤整理 1 件、その他開発 7 件である。

表8 埋蔵文化財発掘届出・通知一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
1	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 6	事業者	慎重工事		加教文第 1 号
2	横倉城跡 城館跡 中世	その他開発 露天駐車場	平岡町新在家 904 番	事業者	確認調査 工事立会	4月16日、 17日	加教文第 2 号
3	古大内遺跡 官衛跡 奈良	個人住宅	野口町古大内 603 番 1 の一部	個人	確認調査 慎重工事	5月15日	加教文第 5 号
4	高畑古墳 古墳 古墳	店舗	志方町高畑 800 番 1 ほか	事業者	確認調査 工事立会	前年度	加教文第 6 号
5	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発 太陽光発電	東神吉町神吉 13 番	事業者	工事立会		加教文第 7 号
6	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 18	事業者	慎重工事		加教文第 8 号
7	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	住宅	平岡町二俣 755 番 3	個人	慎重工事		加教文第 15 号
8	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里 495 番 6 ～ 496 番 1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 17 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{注1}	文書番号
9	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町平野 126 番 2 ～ 溝之口 391 番 1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 156 号
10	平津構居跡 城館跡 中世	個人住宅	米田町平津 549 番、560 番、561 番 7	個人	慎重工事		加教文第 174 号
11	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	その他建物	神野町神野 186 番 1 ほか	事業者	慎重工事		加教文第 223 号
12	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	その他建物	神野町神野 186 番 1 ほか	事業者	慎重工事		加教文第 224 号
13	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	加古川町大野 931 番～845 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 245 号
14	中津構居跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町中津 101 番 15、106 番 16	個人	慎重工事		加教文第 261 号
15	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目 52 番 2 の一部	事業者	慎重工事		加教文第 296 号
16	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 85 番 7	個人	慎重工事		加教文第 309 号
17	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北三丁目 21 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 310 号
18	長砂遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	野口町長砂 1068 番 1	個人	慎重工事		加教文第 353 号
19	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	住宅	神野町西条 1056 番 5、1059 番 18	事業者	慎重工事		加教文第 357 号
20	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 52 番 1	個人	慎重工事		加教文第 387 号
21	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 75 番 6	個人	慎重工事		加教文第 388 号
22	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 75 番 8	個人	慎重工事		加教文第 389 号
23	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 337 番 10	事業者	慎重工事		加教文第 392 号
24	一色構居跡 城館跡 中世	個人住宅	平岡町一色 38 番 3 の一部、38 番 4	個人	慎重工事		加教文第 400 号
25	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	尾上町口里 594 番、595 番、596 番	事業者	確認調査 慎重工事	9 月 2 日	加教文第 466 号
26	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 150 番 3 の一部	個人	慎重工事		加教文第 480 号
27	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町砂部 354 番 96 地先	事業者	慎重工事		加教文第 506 号
28	長砂遺跡 集落跡 弥生	ガス	野口町長砂 1075 番～1068 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 507 号
29	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 367 番 10	事業者	慎重工事		加教文第 521 号
30	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 55 番 3 地先	事業者	工事立会		加教文第 553 号
31	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町西井ノ口 10 番 8	個人	慎重工事		加教文第 555 号
32	石弾城跡 城館跡 中世	ガス	加古川町木村 658 番～675 番 7 地先	事業者	慎重工事		加教文第 567 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
33	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	その他建物	野口町坂元 138 番 2	事業者	確認調査 慎重工事	6 月 13 日	加教文第 570 号
34	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 74 番 4	個人	慎重工事		加教文第 577 号
35	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 117 番 1	個人	慎重工事		加教文第 643 号
36	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	八幡町下村 867 番 2	個人	確認調査 慎重工事	7 月 31 日	加教文第 672 号
37	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目 21 番 2	個人	慎重工事		加教文第 687 号
38	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目 52 番 2 の 一部	事業者	慎重工事		加教文第 690 号
39	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	住宅	平岡町山之上 671 番 5 ほか	事業者	確認調査 慎重工事	10 月 23 日	加教文第 705 号
40	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発 太陽光発電 設備	東神吉町神吉 76 番	個人	工事立会		加教文第 711 号
41	行者塚古墳 古墳 古墳	住宅	山手二丁目 21 番 14	事業者	確認調査 慎重工事	7 月 9 日	加教文第 726 号
42	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 75 番 10	個人	慎重工事		加教文第 728 号
43	石弾城跡 城館跡 中世	住宅	加古川町木村 533 番 1	個人	確認調査 慎重工事	7 月 24 日	加教文第 735 号
44	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	その他開発 駐車場造成	神野町神野 348 番 1、348 番 2	事業者	確認調査 慎重工事	9 月 17 日～20 日、24 日、25 日	加教文第 741 号
45	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 863 番 9	個人	慎重工事		加教文第 790 号
46	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 140 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 795 号
47	尾上構居跡 城館跡 中世	ガス	尾上町長田 423 番 1 地先	事業者	慎重工事		加教文第 811 号
48	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 101 番 2～116 番 8 地先	事業者	慎重工事		加教文第 839 号
49	一色構居跡 城館跡 中世	ガス	平岡町一色 501 番 1 地先	事業者	工事立会		加教文第 849 号
50	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 863 番 15	個人	慎重工事		加教文第 850 号
51	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 413 番 2～408 番 2 地先	事業者	慎重工事		加教文第 864 号
52	一色構居跡 城館跡 中世	住宅	平岡町一色 57 番 5、57 番 11、 58 番 5	事業者	慎重工事		加教文第 907 号
53	平津構居跡 城館跡 中世	ガス	米田町平津 560 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 926 号
54	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町神吉 823 番 188	個人	慎重工事		加教文第 933 号
55	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 319 番 4～390 番 9 地先	事業者	慎重工事		加教文第 979 号
56	一色構居跡 城館跡 中世	ガス	平岡町一色 38 番 3 地先	事業者	慎重工事		加教文第 980 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{注1}	文書番号
57	佐伯寺跡 社寺跡 平安	個人住宅	東神吉町升田 1122 番 1	個人	確認調査 慎重工事	10 月 10 日	加教文第 1022 号
58	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目 21 番 1	個人	慎重工事		加教文第 1035 号
59	天下原遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発 太陽光発電	東神吉町天下原 165 番 1	個人	工事立会		加教文第 1059 号
60	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口 83 番 32～85 番 7 地先	事業者	工事立会		加教文第 1060 号
61	岸城跡 城館跡 中世	宅地造成	西神吉町岸 691 番 1 ほか	事業者	確認調査 発掘調査	9 月 4 日～6 日、 11 月 12 日、 3 月 11 日、12 日	加教文第 1072 号
62	成井山遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	志方町成井 458 番 1、458 番 3	個人	確認調査 慎重工事	9 月 10 日	加教文第 1133 号
63	西条蔵骨器群 その他の墓 中世	水道・ガス・ 電気	神野町西条 828 番地先	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第 1135 号
64	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里 579 番 14～594 番 地先	事業者	確認調査 慎重工事	9 月 2 日	加教文第 1168 号
65	北谷遺跡 集落跡 奈良～平安	その他開発 下水道	西神吉町宮前 157 番 1 地先～ 1106 地先	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第 1169 号
66	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 1059 番 24	個人	慎重工事		加教文第 1219 号
67	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町 1550 番 2	個人	慎重工事		加教文第 1242 号
68	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北一丁目 21 番の一 部	事業者	慎重工事		加教文第 1276 号
69	中西台地遺跡 城館跡 弥生～中世	ガス	西神吉町西村 121 番～東神吉 町神吉 1225 番 8 地先	事業者	工事立会		加教文第 1305 号
70	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	その他開発 駐車場	平岡町新在家 149 番 1 の一部	事業者	確認調査 慎重工事	10 月 9 日	加教文第 1355 号
71	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 75 番 11	事業者	慎重工事		加教文第 1371 号
72	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町砂部 354 番 100	個人	確認調査 慎重工事	10 月 30 日	加教文第 1384 号
73	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 863 番の一部	個人	慎重工事		加教文第 1399 号
74	尾上構居跡 城館跡 中世	宅地造成	尾上町長田 328 番 1	事業者	慎重工事		加教文第 1408 号
75	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 152 番 8	個人	慎重工事		加教文第 1417 号
76	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町神吉 823 番 188 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1418 号
77	稲屋構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町稲屋 776 番 1 の一部	事業者	確認調査 慎重工事	11 月 15 日	加教文第 1510 号
78	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 149 番 25、26	個人	慎重工事		加教文第 1520 号
79	西条 31 号墳 古墳 古墳	個人住宅	西条山手二丁目 5 番 9	個人	確認調査 慎重工事	1 月 9 日	加教文第 1530 号
80	古代山陽道 その他の遺跡 奈良	個人住宅	平岡町山之上 675 番 6	個人	慎重工事		加教文第 1595 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{注1}	文書番号
81	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 863 番 12	個人	慎重工事		加教文第 1601 号
82	古大内遺跡 官衛跡 奈良	その他建物	野口町古大内 394 番 1 ほか	事業者	慎重工事		加教文第 1629 号
83	西村遺跡 集落跡 弥生～奈良	下水道	西神吉町西村 139 番 1	加古川市	確認調査 慎重工事	12 月 25 日	加教文第 1632 号
84	井ノ口城跡 城館跡 中世	個人住宅	上荘町井ノ口 513 番 2	個人	確認調査 慎重工事	11 月 27 日	加教文第 1633 号
85	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 52 番 2	個人	慎重工事		加教文第 1643 号
86	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 149 番 27、149 番 28	個人	慎重工事		加教文第 1652 号
87	石弾城跡 城館跡 中世	ガス	加古川町木村 533 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 1661 号
88	樋之口遺跡 集落跡 弥生	その他建物	尾上町養田 350 番 7	個人	慎重工事		加教文第 1686 号
89	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	尾上町口里 496 番 7	事業者	慎重工事		加教文第 1687 号
90	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	住宅	尾上町口里 496 番 8	事業者	慎重工事		加教文第 1688 号
91	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 415 番 1	個人	慎重工事		加教文第 1709 号
92	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 21 番 11	個人	慎重工事		加教文第 1733 号
93	長畑遺跡 集落跡 弥生	個人住宅	平岡町高畑 124 番 1	個人	慎重工事		加教文第 1734 号
94	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 884 番 1、885 番 1	個人	慎重工事		加教文第 1742 号
95	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里 701 番 10	個人	慎重工事		加教文第 1764 号
96	西田池南遺跡 集落跡 奈良～平安	農業基盤整備	八幡町上西条	兵庫県北播磨県民局	発掘調査		加教文第 1797 号
97	野口廃寺 社寺跡 奈良	宅地造成	野口町野口 352 番 7	事業者	確認調査 慎重工事	2 月 3 日、4 日	加教文第 1815 号
98	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町美乃利 465 番 5	事業者	慎重工事		加教文第 1818 号
99	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口 110 番 7 ほか	個人	慎重工事		加教文第 1875 号
100	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町美乃利 525 番 31	個人	確認調査 慎重工事	2 月 7 日	加教文第 1876 号
101	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 37 番 30	事業者	慎重工事		加教文第 1907 号
102	平野遺跡 集落跡 弥生	ガス	加古川町平野 515 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 1953 号
103	助永砦 城館跡 中世	下水道	志方町氷室 303 番 3、388 番 5	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第 1960 号
104	神吉南遺跡 集落跡 弥生～奈良	その他開発 太陽光発電 設備	東神吉町神吉 76 番	個人	慎重工事		加教文第 1962 号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間 ^{註1}	文書番号
105	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	東神吉町神吉 1170 番 5 地先	事業者	慎重工事		加教文第 1969 号
106	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 36 番 3	事業者	慎重工事		加教文第 1998 号
107	広沢山遺跡 集落跡 古墳～平安	下水道	加古川町大野 1561 番付近	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第 2000 号
108	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	個人住宅	神野町西条 863 番 11	個人	慎重工事		加教文第 2044 号
109	稲屋構居跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町稲屋 577 番の一部	個人	慎重工事		加教文第 2045 号
110	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	下水道	加古川町大野 861 番 1 地先～ 865 番 1 地先	加古川市上下水道局	慎重工事		加教文第 2065 号
111	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	東神吉町神吉 1158 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 2119 号
112	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	東神吉町神吉 1186 番 4 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2120 号
113	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 228 番 1	個人	確認調査 慎重工事	2 月 19 日	加教文第 2121 号
114	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 52 番 6	個人	慎重工事		加教文第 2150 号
115	広沢山遺跡 集落跡 古墳～平安	公園造成	加古川町大野 1717 番 4 ほか	加古川市	発掘調査		加教文第 2176 号
116	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北一丁目 21 番 2 の 一部	事業者	慎重工事		加教文第 2207 号
117	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口 116 番 10 ほか	事業者	慎重工事		加教文第 2227 号
118	長砂遺跡 集落跡 弥生	住宅	野口町長砂 1094 番 13	事業者	確認調査 慎重工事	2 月 27 日	加教文第 2233 号
119	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里 701 番 10 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2265 号
120	中西麿寺 社寺跡 奈良	ガス	西神吉町中西 149 番 11 ～ 238 番 7 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2285 号
121	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	東神吉町神吉 1158 番～ 1160 番地先	事業者	慎重工事		加教文第 2286 号
122	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	東神吉町神吉 1173 番 9 ～ 1173 番 7 地先	事業者	慎重工事		加教文第 2287 号
123	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利 492 番 1、4	個人	慎重工事		加教文第 2319 号
124	石弾城跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町木村 659 番 1 ほか	個人	慎重工事		加教文第 2378 号
125	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	工場	神野町神野 156 番 1 ほか	加古川市	慎重工事		加教文第 2454 号
126	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目 93 番	個人	慎重工事		加教文第 20011 号

註 1：調査期間は確認調査の期間であり、発掘調査及び工事立会の期間は記載していない。

(3) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査通知

令和元年度は、表9のとおり文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査通知を報告した。

表9 埋蔵文化財発掘調査通知一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査の契機	調査期間	調査担当者	文書番号
1	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元 118 番 1 ほか 8 筆地 先、水路の一部	360 m ²	店舗	平成 31 年 4 月 16 日 ～ 令和元年 7 月 5 日	山中リュウ	加教文第 240 号
2	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野	594 m ²	道路	令和 2 年 2 月 17 日 ～ 令和 2 年 6 月 17 日	平尾英希	加教文第 2084 号

(4) 埋蔵物発見届

令和元年度は、表10のとおり埋蔵物発見届を提出した。

表10 埋蔵物発見届一覧

番号	遺跡名	所在地	埋蔵物の名称及び数量	発見月日	発見者	土地所有者	文書番号
1	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町 1634 番 3	土師器・須恵器 遺物収納コンテナ 1 箱	4 月 1 日	加古川市教育委員会	加古川市	加教文第 69 号
2	西条遺跡 集落跡 縄文～平安	神野町西条 863 番、875 番、 877 番の一部、881 番 1、 882 番 2、水路	土師器・須恵器 遺物収納コンテナ 1 箱	4 月 1 日	加古川市教育委員会	事業者	加教文第 70 号
3	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野 944 番 2	土師器・須恵器・瓦 遺物収納コンテナ 1 箱	4 月 1 日	加古川市教育委員会	個人	加教文第 71 号
4	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	東神吉町神吉 1118 番 1	土師器・須恵器・陶器・瓦 遺物収納コンテナ 1 箱	4 月 1 日	加古川市教育委員会	個人	加教文第 72 号
5	高畑古墳 古墳 古墳	志方町志方町高畑 800 番 1 ほか	須恵器、瓦、鉄器 遺物収納コンテナ 1 箱	4 月 1 日	加古川市教育委員会	個人 (7 名)	加教文第 73 号
6	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元 118 番 1 ほか 8 筆、地先水路の一部	弥生土器・土師器・須恵器・ 金属製品 遺物収納コンテナ 10 箱	7 月 5 日	加古川市教育委員会	加古川市	加教文第 240 号
7	下村遺跡 集落跡 弥生～平安	八幡町下村 867 番 2	土師器・須恵器 遺物収納コンテナ 1 箱	3 月 2 日	加古川市教育委員会	個人	加教文第 672 号
8	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町美乃利 525 番 31	弥生土器・土師器・須恵器 遺物収納コンテナ 1 箱	3 月 2 日	加古川市教育委員会	個人	加教文第 1876 号

(古林)

第6章 組織、予算・決算、管理

1 文化財保護事務の体制

(1) 事務局

令和元（2019）年度の加古川市教育委員会の文化財保護事務の体制は以下のとおりである。

加古川市教育委員会事務局	教育指導部	文化財調査研究センター
教育長 小南克己	部長 山本照久	
	次長 杉本達之	

(2) 職員

令和元年度の文化財調査研究センターの職員は以下のとおりである。

所長	沼田好博
副所長	宮本佳典（学芸員）
庶務担当係長	吉岡和誠（教育研究所事務担当係長兼務）
主査	藤原典子（教育研究所主査兼務、再任用職員）
主査	高下 寛
学芸員	山中リュウ
学芸員	平尾英希
学芸員	浅井達也（任期付職員）
嘱託員	岡田美穂（埋蔵文化財専門員）
臨時職員	高原みさ子

2 予算・決算

(1) 歳入決算額（ ）内は当初予算額

(款) 国庫支出金	(項) 国庫補助金	(目) 教育費国庫補助金	4,251 千円 (4,650 千円)
(款) 県支出金	(項) 県補助金	(目) 教育費県補助金	1,400 千円 (1,500 千円)
(款) 諸収入	(項) 受託事業収入	(目) 教育費受託収入	5,331 千円 (8,492 千円)
(款) 諸収入	(項) 雑入	(目) 雑入	30 千円 (20 千円)
	計		11,012 千円 (14,662 千円)

(2) 歳出決算額（ ）内は当初予算額、事業名の下に主な事業内容を記入

(款) 教育費	(項) 社会教育費	(目) 文化財保護費	以上共通
(事業) 文化財調査事業			13,218 千円 (16,898 千円)
	市内遺跡発掘調査（国庫補助事業）、雁戸井地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書作成、公共事業に伴う試掘調査		
(事業) 文化財保護活動事業			5,456 千円 (6,047 千円)
	文化財審議委員会等開催、文化財ニュース発行、文化財説明板等設置、史跡及び建造物等管理、文化財保存管理補助、史跡及び建造物等草刈等管理、その他の文化財関係事務		
(事業) 歴史文化基本構想策定事業（国庫補助事業）			1,418 千円 (2,077 千円)
	説明会等の開催、情報発信		
	計		20,092 千円 (25,022 千円)

3 施設管理等

環境整備として、加古川市が管理する行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳(以上、国史跡)、西条廃寺跡(県史跡)、南大塚古墳、西大塚古墳、奥新田西古墳の草刈等環境整備を加古川市シルバー人材センターに業務を委託して行った。

加古川市が管理する県指定有形文化財本岡家住宅について、清掃及び案内等施設管理を加古川市シルバー人材センターに委託した。消防設備点検及び樹木伐採を各専門業者に業務を委託して行った。また、茅葺屋根への鳥害防止策として、建物の周囲2か所にカラスおどしを設置した。

文化財説明板等設置及び環境整備として、加古川市が提供する文化財説明板等設置及び周辺の清掃等環境整備を加古川市シルバー人材センターに業務を委託して行った。

(古林)

4 令和元年度業務日誌抄

- 4月17日～7月6日 坂元遺跡本発掘調査(民間開発、店舗)
- 4月19日 鶴林寺消防設備特別査察立会(沼田)
- 4月23日 鶴林寺木造聖徳太子立像県指定文化財指定書交付式のため兵庫県公館に出張(沼田)
- 5月5日 本岡家住宅こどもの日特別公開、箏曲柳の会・すみれキンダーガーデン・別府小学校琴クラブOG合同コンサート及び体験教室のため本岡家住宅使用受入れ
- 5月7日、6月3日 資料調査受入れ(学術研究、平荘湖古墳群出土資料)
- 5月8日 神野小学校6年生「地域の古墳探検歴史学習」講師(生徒87人、教諭6人)(浅井)
- 5月17日 県文化財主管課連絡会議のため兵庫県職員会館に出張(高下、平尾)
- 5月27～31日 神吉・中津線道路改良事業に伴う中津・出河原地区試掘調査(平尾)
- 6月3～7日 「トライやる・ウィーク」平岡中学校3人受入れ(平尾ほか)
- 6月6日 国包郷校に係る国包共同墓地三谷伊左衛門墓誌現状確認(山中)
- 6月13日 兵庫大学「地域と文化財」加古川総合文化センター博物館及び作業室見学案内(受講学生15人ほか)(宮本)
- 6月14日 第1回文化財審議委員会
- 7月11日 資料調査受入れ(特別展準備、砂部遺跡出土資料ほか)
- 7月27日 兵庫県まちづくり技術センターの宗佐遺跡(南北道路事業)発掘調査現地説明会見学(山中ほか)
- 8月7日 兵庫県文化財保存活用大綱策定に向けた意見交換会及び文化財保存研修会出席(加古川市立勤労会館)(沼田、宮本、山中)
- 8月6日～9月20日 資料調査受入れ(学術研究、行者塚古墳出土資料)
- 8月9日 資料調査受入れ(展示準備、野口廃寺出土資料)
- 8月21日 加古川市文化財保護協会理事会あいさつ(沼田)
- 8月26日 兵庫県都市文化財保護行政連絡協議会総会のため赤穂市立有年考古館に出張(沼田)
- 8月28日 資料調査受入れ(卒業論文、行者塚古墳出土鉄製品資料)
- 9月11日 文化庁鶴林寺防災施設現地調査立会(沼田、宮本)
- 9月12日 いなみ野学園有志西条廃寺清掃奉仕受入れ
- 9月12、13日 埋蔵文化財担当職員研修(基礎研修)参加(岡田)
- 9月17～20日 奈良文化財研究所文化財担当者研修(堆積・地質学基礎研修)(平尾)
- 9月26～27日 文化財保存活用地域計画等連絡協議会のため白沙村荘 橋本関雪記念館(京都市)に出張(山中)

- 10月9日 兵庫県都市文化財保護行政連絡協議会の兵庫県教育長への令和2年度予算要望書提出のため兵庫県庁に出張（沼田）
- 10月18日 本岡家住宅一般団体見学受入れ（建築業関係団体25人）
- 10月21日 『加古川市歴史文化基本構想（冊子）』刊行
- 10月29日 本岡家住宅学校団体受入れ（浜の宮小学校3年生、生徒110名・教諭等5人）
- 10月30日 資料調査受入れ（修士論文、東車塚古墳出土資料）
- 11月1日 陵南公民館賀古の里大学歴史講座講師（参加者約60人）（山中）
- 11月4日 里地区まちづくり協議会第2回「まち歩きと意見交換会」講師（参加者約25人）（宮本）
- 11月7日 資料調査受入れ（学術論文、東車塚古墳出土資料）
- 11月14日 東播磨・北播磨地区文化財担当者会のためみき歴史資料館に出張（山中、浅井）
- 11月16日 第1回「加古川市の歴史文化」連続シンポジウム・文化財講座（参加者120人）
- 11月20日 全国史跡整備市町村協議会臨時大会のためホテルニューオータニ東京などへ出張（山中）
- 11月24～28・30日 本岡家住宅秋の特別公開
- 11月29日 兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会のため兵庫県立考古博物館へ出張（山中）
- 11月30日 第2回「加古川市の歴史文化」連続シンポジウム・文化財講座（参加者121人）
- 12月7日 第3回「加古川市の歴史文化」連続シンポジウム・文化財講座（参加者110人）
- 12月11日 資料調査受入れ（特別展準備、行者塚古墳出土資料）
- 12月13日 兵庫県史跡整備協議会役員会・総会・研修会のため丹波篠山市役所へ出張（宮本、山中）
- 12月14日 第4回「加古川市の歴史文化」連続シンポジウム・文化財講座（参加者123人）
- 12月15日 高砂市立図書館名誉館長講座「高砂市史を読んでまちに出よう2019」講師（参加者40人）（宮本）
- 12月16日 第2回文化財審議委員会
- 1月7日 資料調査受入れ（特別展準備、行者塚古墳出土資料）
- 1月8日 学校厚生会東播支部歴史教室講師（参加者約30人）（平尾）
- 1月26日 文化財防火デー鶴林寺消防訓練視察（沼田、宮本）
- 1月28日 第5回社会教育委員会議施設見学等受入れ
- 1月29日 令和2年度国庫補助事業国費交付申請書及び打合せのため兵庫県庁に出張（浅井）
- 1月31日 第3回文化財審議委員会
- 2月1日 奈良文化財研究所第20回古代瓦研究会シンポジウム（野口廃寺出土鷗尾展示）のため平城宮跡資料館に出張（平尾）
- 2月2日 『加古川市歴史文化基本構想（概要版）』刊行
- 2月3日 令和2年度国庫補助事業（鶴林寺防災施設）交付申請打合せのため兵庫県庁に出張（宮本）
- 2月5日 大中遺跡調査研究活用プロジェクト第2回研究会のため兵庫県立考古博物館へ出張（山中）
- 2月15日 平岡町正興寺涅槃会（涅槃図公開）視察（宮本）
- 2月17日～6月17日 美乃利遺跡本発掘調査（中津水足線外1線改良事業、道路）
- 3月5～26日 資料調査受入れ（学術研究、行者塚古墳出土資料）
- 3月12日 市指定文化財に「画文帯神獣鏡」を指定
- 3月19日 『加古川市文化財年報 第3号 平成29（2017）年度』刊行
- 3月31日 『栗津遺跡発掘調査報告書』、『上村池遺跡発掘調査報告書Ⅰ』刊行
- 3月31日 『文化財ニュース』63号発行
- 3月31日 『文化財解説シート』第21～24号発行

（宮本）

報 告 書 抄 録

ふりがな	かこがわしぶんかざいねんぼう だいごごう
書 名	加古川市文化財年報 第5号
副 書 名	令和元（2019）年度
巻 次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者	宮本佳典、山中リュウ、平尾英希、古林舞香（編）、岡田美穂
編 集 機 関	加古川市教育委員会
所 在 地	〒 675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家 1224 番地の 7
発行年月日	令和 4（2022）年 3 月 31 日

所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
下村遺跡	かこがわし 加古川市 やはたちょうしもむら 八幡町下村 867 番 2	28210	110289	34° 47' 06"	134° 54' 25"	2019 年 7 月 31 日	8.0 m ²	個人住宅
岸城跡	かこがわし 加古川市 にしかんきょうきし 西神吉町岸 691 番 1 ほか 8 筆	28210	110514	34° 79' 41"	134° 81' 14"	2019 年 9 月 4 日～ 6 日、11 月 12 日 2020 年 3 月 11 日、 12 日	60.2 m ²	宅地造成
美乃利遺跡	かこがわし 加古川市 かこがわちよみのり 加古川町美乃利 525 番 31	28210	110218	34° 76' 90"	134° 85' 35"	2020 年 2 月 7 日	4.0 m ²	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下村遺跡	集落	弥生時代 ～平安時代	ピット	土師器・須恵器	
岸城跡	城館	中世	溝状遺構・土坑・ピット	土師器・須恵器	
美乃利遺跡	集落	弥生時代 ～中世	性格不明遺構	弥生土器・土師器・須恵器	

加古川市文化財年報

第5号

令和元（2019）年度

令和4（2022）年3月31日発行

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224番地の7
TEL 079-423-4088

印刷 小野高速印刷株式会社
〒670-0933 兵庫県姫路市平野町62
TEL 079-281-0008

